

## UPS管理システム

# BPSPOC-II

インストールガイド

NECフィールディング

- ※ Windowsは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- ※ Solarisは、Oracle Corporation およびその子会社、関連会社の米国およびその他の国における登録 商標です。
- ※ LinuxはLinus Torvalds氏の米国およびその他の国における登録商標あるいは商標です。
- ※ Javaおよび全てのJava関連の商標およびロゴは、Oracle Corporation およびその子会社、関連会社の米国およびその他の国における登録商標です。
- ※ VMware、ESX Serverは、米国およびその他の地域におけるVMware, Inc.の登録商標または商標です。
- ※ その他の製品名、社名は各社の登録商標または商標です。
- ※ Microsoft Corporationのガイドラインに従って画面写真を使用しています。

#### おことわり

- (1) 本ソフトウェアおよび本書の一部または全部を、許可なく複製、転載することは、 かたくお断りいたします。
- (2) 本製品の内容につきましては万全を期して検査を行っておりますが、万一、お気づきの点がございましたら、下記お問い合わせ先までご連絡ください。
- (3) 本製品の内容は、予告なく変更される場合があります。
- (4) 本製品の運用に際しては、本取扱説明書をよくお読みになって、機能を理解した上で御使用ください。本製品を使用したことによる結果につきましては、責任を負いかねますので、ご了承ください。

#### ■輸出に関する注意事項

本製品の輸出(個人による携行を含む)については、外国為替及び外国貿易法に基づいて経済産業省の許可が必要となる場合があります。

必要な許可を取得せずに輸出すると同法により罰せられます。

輸出に際しての許可の要否については、ご購入頂いた販売店または当社営業拠点に お問い合わせ下さい。

#### ■ Notes on export

Export of this product (including carrying it as personal baggage) may require a permit from the Ministry of Economy, Trade and Industry under an export control law. Export without necessary permit is punishable under the said law. Customer shall inquire of NEC Fielding, Ltd.. sales office whether a permit is required for export or not.

## 目次

1. はじめに	1
1.1 動作環境	
1.1.1 Windows の場合	1
1.1.2 UNIX(Solaris)の場合	4
1.1.3 Linux の場合	6
1.2 製品の保管と廃棄	8
1.2.1 製品の保管	8
1.2.2 製品の破棄	8
2. インストールを行う前に	9
2.1 UPSの動作モード確認	9
2.2 UPSとの通信接続	9
2.3 コンピュータの接続方法の確認	10
3. インストール	12
3.1 Windows の場合	12
3.1.1 インストールプログラムの起動	12
3.1.2 製品のライセンス	14
3.1.3 ユーザ情報の入力	14
3.1.4 インストール先フォルダの確認	
3.1.5 セットアップタイプの選択	
3.1.6 追加機能の選択(セットアップタイプ:「カスタム」選択時)	
3.1.7 インストール開始の確認とインストール	
3.1.8 インストールの終了	17
3.2 UNIX(Solaris)の場合	19
3.2.1 インストールプログラムの起動	
3.2.2 インストール(Solaris10 以降)	
3.2.3 インストール (Solaris8、Solaris9用)	
3.2.4 コンピュータの再起動	25
3.3 Linux の場合	
3.3.1 インストールプログラムの起動	
3.3.2 インストール	
3.3.3 コンピュータの再起動	29
4. セットアップ	30
4.1 設定ウィザード機能(GUI 版設定ツール)	30
4.1.1 UPS とサーバ接続した場合のセットアップ	31

4.1.2 UPS とクライアント接続した場合のセットアップ	42
4.1.3 UPS とネットワーク接続した場合のセットアップ	52
<b>4.2 設定ウィザード機能(CUI版設定ツール)</b> 4.2.1 接続UPSの登録(セットアップ)について	
5. BPSPOC-II の動作について	77
6. アンインストール	77
6.1 Windows の場合	77
6.2 Solaris10 以降の場合	79
6.3 Solaris8、9 の場合	80
6.4 Linux の場合	81
付録A Windows 版をお使いになる際の注意事項	82
付録B Linux 版をお使いになる際の注意事項	89
付録C UNIX 版をお使いになる際の注意事項	96
付録 D サイレントインストールの使用について	99

## 1. はじめに

BPSPOC-IIは、UPSと組み合わせて使用するソフトウェアです。

停電などの電源異常発生時にコンピュータを安全に自動シャットダウンすることができます。 また、UPSの状態監視、状態履歴確認を行うことができます。

本製品を使用すると、IPv6のネットワーク環境でも使用できます。(一部未対応のOSがあります。IPv6 対応の有無については、下記の「動作環境」の項を確認ください)

このマニュアルでは、**BPSPOC-II Version 3**のインストールおよびセットアップについての説明をしています。なお、文中に「LANインタフェースカード」という表現が出てきた場合は、「BPWEB BOARD」と読み替えてください。

#### 1.1 動作環境

BPSPOC-IIは、各種オペレーティングシステムに対応しています。それぞれ動作環境が異なりますので、お使いのオペレーティングシステムに関する項目を参照してください。

#### 1.1.1 Windows の場合

(1) ハードウェア

ディスク容量 :300Mバイト以上の空き容量

(インストール時は、400Mバイト以上の空き容量が必要)

ディスプレイ : 解像度800×600以上/256色以上

(2) ソフトウェア

動作OS : Windows XP

Professional (\*\*1) / Home Edition (\*\*1)

Professional x64 Edition

Windows Server 2003

Standard Edition <sup>(\*\*2)</sup> / Enterprise Edition <sup>(\*\*2)</sup> Standard x64 Edition / Enterprise x64 Edition Enterprise Edition for Itanium-based systems <sup>(\*\*2)</sup>

Windows Server 2003 R2

Standard Edition / Enterprise Edition
Standard x64 Edition / Enterprise x64 Edition

Windows Vista

Business Edition / Ultimate Edition / Enterprise Edition Business 64-bit Edition / Ultimate 64-bit Edition

**Enterprise 64-bit Edition** 

Windows Server 2008 (\*3)

Standard / Enterprise

Windows Web Server 2008 (\*\*3)

Windows Server 2008 for Itanium-based Systems (\*\*4)

Windows 7 (%5)

Professional / Ultimate / Enterprise

Windows Server 2008 R2 (\*\*6)

Standard / Enterprise

Windows Web Server 2008 R2 (\*\*6)

Windows Server 2008 R2 for Itanium-based Systems (\*\*4)

Windows 8 (%5)

Windows 8 / Windows 8 Pro / Windows 8 Enterprise

Windows Server 2012 (\*\*6) (\*\*7)

Essentials / Standard / Datacenter

Windows 8.1 (\*\*5)

Windows 8.1 / Windows 8.1 Pro / Windows 8.1 Enterprise

Windows Server 2012 R2 (\*\*6) (\*\*7)

Essentials / Standard / Datacenter

Windows 10 (\*\*5)

Home / Pro / Enterprise / Education

Windows Server 2016 (\*\*6) (\*\*7)

Essentials / Standard / Datacenter

- (※1) ServicePack2以上がインストールされている必要があります。
- (※2) ServicePack 1 以上がインストールされている必要があります。
- (※3) x86版, x64版に対応しています。Server Core にも対応しています。
- (※4) Full installationのみの対応となります。
- (※5) x86版, x64版に対応しています。
- (※6) Server Core にも対応しています。
- (※7)IPv6未対応のLANインタフェースカードにネットワーク接続して使用する場合は、「付録A Windows版をお使いになる際の注意事項」の「Windows Server 2012 からLANインタフェースカードにネットワーク接続する場合の注意」を参照してからお使いください。
- (※8) UPSからの給電により、コンピュータを自動起動する場合は、「付録A Windows 版をお使いになる際の注意事項」の「コンピュータの自動起動機能の制約について」を確認してください。

#### <インストールガイド中の OS の表記について>

- ・特記事項がない限り、「Windows Server 2003」、「Windows Server 2008」、「Windows Server 2012」は、それ ぞれ「R2」版を含めたものを指しています。
- ・特記事項がない限り、「Windows 8」、および「Windows 8.1」は、「Windows 8」と表記しています。

#### (3) IPv6通信への対応状況

BPSPOC-IIでは、ご利用のOSバージョンにより、IPv4/IPv6通信の対応状況が異なります。以下の表で対応状況を確認してください。

## IPv4/IPv6アドレスを使用した通信が可能なOSバージョン (※9)

Windows 7

Windows 8

Windows 8.1

Windows 10

Windows Server 2008 R2

Windows Web Server 2008 R2

Windows Server 2008 R2 for Itanium-based Systems

Windows Server 2012

Windows Server 2012 R2

Windows Server 2016

## IPv4アドレスのみを使用するOSバージョン (※10)

Windows XP

Windows Vista

Windows Server 2003

Windows Server 2003 R2

Windows Server 2008

Windows Web Server 2008

Windows Server 2008 for Itanium-based Systems

- (※9) **BPSPOC-II**でIPv6通信を行う場合、コンピュータのネットワークは、IPv6が有効になっている必要があります。
- (※10) コンピュータがIPv6通信を使用できる環境でも、BPSPOC-IIは、IPv4のみの 通信になります。

#### OS をアップグレードする場合の注意

BPSPOC-II は、OS バージョンにより、インストールするプログラムファイルに違いがあるため、OS アップグレード後、そのまま使用する場合の動作は保証できません。

BPSPOC-II をアンインストールし、再度インストールしてお使いください。

## 1.1.2 UNIX (Solaris) の場合

#### Solaris SPARC版

(1) ハードウェア

ディスク容量 : 120Mバイト以上の空き容量

ディスプレイ : 解像度800×600以上/256色以上

(GUI版ツールを使用する場合)

#### (2) ソフトウェア

動作OS : Solaris 8 (%1) (%2) (%3) 、 9 (%1) (%3) 、 10 (%1) (%3) 、 11 (%3)

- (※1)日本語版インストールの場合、日本語環境(EUC)がインストールされている 必要があります。
- (※2) Solaris 8(10/00) 版以降を推奨。
- (※3) ご使用の環境によっては、Solaris OSにパッケージの追加インストールが必要になります。「付録C UNIX版をお使いになる際の注意事項」の「Solaris版のご使用にあたって」を確認していただき、必要なパッケージをインストールしてから、動作させてください。

#### (3) IPv6通信への対応状況

BPSPOC-IIでは、ご利用のOSバージョンにより、IPv4/IPv6通信の対応状況が異なります。以下の表で対応状況を確認してください。

IPv4/IPv6アドレスを使用した通信が可能なOSバージョン(※4)

Solaris 10

Solaris 11

IPv4アドレスのみを使用するOSバージョン (※5)

Solaris 8

Solaris 9

- (※4) **BPSPOC-II**でIPv6通信を行う場合、コンピュータのネットワークは、IPv6が有効になっている必要があります。
- (※5) コンピュータがIPv6通信を使用できる環境でも、BPSPOC-IIは、IPv4のみの通信になります。

#### OS をアップグレードする場合の注意

BPSPOC-II は、OS バージョンにより、インストールするプログラムファイルに違いがあるため、OS アップグレード後、そのまま使用する場合の動作は保証できません。

BPSPOC-II をアンインストールし、再度インストールしてお使いください。

#### Solaris x86版

(1) ハードウェア

ディスク容量: 120Mバイト以上の空き容量

ディスプレイ:解像度800×600以上/256色以上

(GUI版のツールを使用する場合)

(2) ソフトウェア

動作OS : Solaris 10 (\*\*6) (\*\*7) (\*\*8) 、11 (\*\*6) (\*\*8)

(※6)日本語版インストールの場合、日本語環境(EUC)がインストールされている必要があります。

(※7) Solaris 10(3/05) 版以降を推奨。

(※8) ご使用の環境によっては、Solaris OSにパッケージの追加インストールが必要になります。「付録C UNIX版をお使いになる際の注意事項」の「Solaris 版のご使用にあたって」を確認していただき、必要なパッケージをインストールしてから、動作させてください。

#### (3) IPv6通信への対応状況

ご利用のOSにおいて、IPv6が有効になっていれば、BPSPOC-IIでもIPv6アドレスを使用した通信が行えます。

#### 1.1.3 Linuxの場合

(1) ハードウェア

ディスク容量 : 130Mバイト以上の空き容量

ディスプレイ :解像度800×600以上/256色以上

(GUI版のツールを使用する場合)

(2) ソフトウェア

動作OS <sup>(※1)</sup> : Red Hat Enterprise Linux 3、4、5、6、7

(x86, AMD64, EM64T, Itanium)

SUSE Linux Enterprise Server 9, 10, 11, 12

(x86, AMD64, EM64T)

MIRACLE LINUX V4.0 SP2 以降

(x86, AMD64, EM64T)

MIRACLE LINUX Asianux Server 3, 4

(x86, AMD64, EM64T)

**⟨VMware ESX Server⟩**(※2)(※3)

VMware ESX Server 3.0, 3.5, 4.0, 4.1

- (※1)日本語版インストールの場合、日本語環境(EUCまたはUTF8)がインストールされている必要があります。
- (※2) VMware ESX ServerホストにBPSPOC-II Linux版をインストールします。
- (※3) VMware ESX ServerホストとUPSをシリアルケーブルで接続して使用する構成では使用できません。以下の「注意」をご確認ください。

#### <注意: VMware ESX Server ホストヘインストールする場合>

UPS と VMware ESX Server ホスト (ホスト OS) をシリアルケーブルで接続する構成の場合、ホスト OS 側においてシリアル通信が正常に行えない場合があります。そのため、ホスト OS と UPS 間をシリアルケーブルで接続する構成では使用しないでください。

使用構成としては、「2.3 コンピュータの接続方法の確認」の項にある、「クライアント接続コンピュータ」または、LAN インタフェースカードを使用する構成のいずれかで使用してください。

#### (3) IPv6通信の対応状況

BPSPOC-IIでは、ご利用のOSバージョンにより、IPv4/IPv6通信の対応状況が異なります。以下の表で対応状況を確認してください。

## IPv4/IPv6アドレスを使用した通信が可能なOSバージョン (※4)

Red Hat Enterprise Linux 3

Red Hat Enterprise Linux 4

Red Hat Enterprise Linux 5

Red Hat Enterprise Linux 6

Red Hat Enterprise Linux 7

SUSE Linux Enterprise Server 10 SP3以降

SUSE Linux Enterprise Server 11 SP2以降

SUSE Linux Enterprise Server 12

MIRACLE LINUX V4.0 SP2以降

MIRACLE LINUX Asianux Server 3

MIRACLE LINUX Asianux Server 4

VMware ESX Server 4.0, 4.1

## IPv4アドレスのみを使用するOSバージョン (※5)

SUSE Linux Enterprise Server 9

SUSE Linux Enterprise Server 10(SP2まで)

SUSE Linux Enterprise Server 11(SP1まで)

VMware ESX Server 3.0, 3.5

- (※4) **BPSPOC-II**でIPv6通信を行う場合、コンピュータのネットワークは、IPv6が有効になっている必要があります。
- (※5) コンピュータがIPv6通信を使用できる環境でも、BPSPOC-IIは、IPv4のみの通信になります。

#### OS をアップグレードする場合の注意

BPSPOC-II は、OS バージョンにより、インストールするプログラムファイルに違いがあるため、OS アップグレード後、そのまま使用する場合の動作は保証できません。

BPSPOC-II をアンインストールし、再度インストールしてお使いください。

## 複数のネットワークインタフェースを持ったコンピュータからリンクローカルアドレス (IPv6) を使用する場合の注意

Red Hat Enterprise Linux for Itanium 版を使用している場合、対象になります。

接続ウィザード(GUI ツール)から装置登録を行う際、自コンピュータの使用アドレスとして、リンクローカルアドレス(IPv6)を選択する場合、他のネットワークインタフェースより優先度が低いネットワークインタフェースのアドレスを選択すると、通信が行われない場合があります。

他より優先度が高いネットワークインタフェースのアドレスを選択するか、CUI ツールを使用して設定を行ってください。

グローバルアドレスを選択する場合は、影響ありません。

#### < VMware ESX Server のシャットダウンについて>

VMware ESX Server ホストには BPSPOC-II の Linux 版をインストールします。(停電時、ホストを自動シャットダウンできます。)

ゲストOSのシャットダウンは、以下のどちらかで行えます。

- (1) VMware ESX Server の連動シャットダウン機能を使用して、ホストシャットダウン時にゲストO Sをシャットダウンする。
- (2) ゲストOSにも BPSPOC-II をインストールします。ホストが、ゲストOSのシャットダウン後、シャットダウンを開始するように、BPSPOC-II を設定します。(シャットダウン待機時間の設定により、シャットダウンの開始を遅延します。)

## 1.2 製品の保管と廃棄

## 1.2.1 製品の保管

本製品は、直射日光が当たる場所、高温・多湿な場所には保管しないようにしてください。

#### 1.2.2 製品の破棄

インストールCD、およびCDケースは、各自治体の定める分類方法により廃棄できます。 分類方法が不明な場合は、各自治体にお問い合わせください。

## 2. インストールを行う前に

インストールを行う前に、UPSとの接続について確認します。

## 2.1 UPSの動作モード確認

UPS本体のインタフェース設定を確認します。

接続するUPSに「インタフェース設定」がある場合、設定を「W/S(ワークステーション) モード」に設定します。

(UPSの機種によっては、「インタフェース設定」のデフォルト値が「W/Sモード」に設定済みの機種があります。)

#### <「インタフェース設定」について>

- 「W/Sモード」の設定方法については、UPS付属の「取扱説明書」をご確認の上、 設定を行ってください。
- ・UPS本体の「外部転送信号」(接点信号)を使用する場合は、「W/Sモード」の設定は必要ありません。ただし、「外部転送信号」使用時は、UPSの停止ができない、UPSの状態表示ができない等の制約があります。

#### 22 UPSとの通信接続

UPSと直接シリアルケーブル<sup>(\*)</sup> を接続して使用する場合は、**BPSPOC-II**、またはUPS付属のシリアルケーブルを使用します。

シリアルケーブルは、コンピュータのシリアルポートに接続して使用します。

(※) コンピュータ側にUSBシリアル変換ケーブルを接続し、シリアルケーブルと接続する 環境での動作は保証していません。また、当社指定以外のシリアルケーブルを使用し た場合については、動作保障していません。

LANインタフェースカード(オプション品)をUPSに組み込んで使用する時は、まずLANインタフェースカードにIPアドレスを設定していただいた上でご使用ください。

#### <IPアドレス設定について>

- ・LANインタフェースカードへのIPアドレス設定については、LANインタフェースカードの「取扱説明書」、または「ユーザガイド」をご確認の上、設定を行ってください。
- •接続するためのLANケーブルは、BPSPOC-II、LANインタフェースカード、およびUPSには付属していません。お客様にて必要な長さのLANケーブルをご用意いただく必要があります。

## 2.3 コンピュータの接続方法の確認

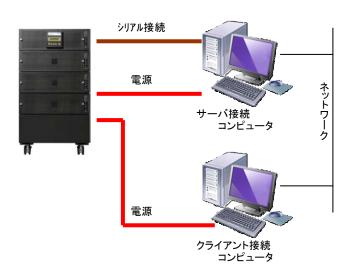
UPSとの接続方法(UPSと直接シリアル接続、またはLANインタフェースカードを使用するなど)につきましては、インストール後のセットアップ操作において設定します。セットアップ時には、BPSPOC-IIをインストールするコンピュータを、UPSとどのように接続して使用するかを決めておく必要があります。

UPSとコンピュータを接続する方法としては、次の2通りがあります。

- ・シリアルケーブル(接点接続を含む)で接続して使用する場合
- ・LANインタフェースカードを使用する場合

以下にそれぞれの接続方法のシステム構成例を説明しています。

## シリアルケーブルで接続して使用する場合



UPSとシリアル接続(接点接続含む)しているコンピュータは、「サーバ版」として動作し、 それ以外のコンピュータは、「クライアント版」として動作します。(サーバークライアント 間、クライアントークライアント間はネットワーク接続されている必要があります。)

UPSにコンピュータ1台のみ接続して使用する場合は、ネットワーク環境無しでも利用できます。

## LANインタフェースカードを使用する場合



LANインタフェースカードを組み込んだUPSを使用する時、接続するコンピュータは、「ネットワーク版」として動作します。(サーバ、クライアントの区別はありません。)

## 3. インストール

BPSPOC-IIは、各種オペレーティングシステムに対応しています。それぞれインストール方法が異なりますので、お使いのオペレーティングシステムに関する項目を参照してください。

以降の操作は、管理者権限(Administrators、root)を持ったユーザで実施してください。

当社の「UPS管理ソフト」の旧製品が既にインストールされている場合、あらかじめ アンインストールを行ってから、本製品のインストールを行ってください。

#### 3.1 Windowsの場合

#### 3.1.1 インストールプログラムの起動

- (1) CD-ROMドライブにBPSPOC-II for WindowsのインストールCDをセットします。
- (2) インストールプログラムが自動起動し、次の画面が表示されます。 ここでは、「日本語」版をインストールする場合について説明します。



ここで選択した言語は、後から変更することはできません。

#### インストールプログラムが自動起動しない場合

エクスプローラを起動し、インストールCDに移動します。

インストールCD中にある Setup.exe をダブルクリックし、インストールプログラムを起動します。

Wondows Server 2008、Windows Server 2012、または Windows Server 2016 を Server Core 環境で使用している場合は、コマンドラインからインストール C D 中にある Setup.exe を実行します。

#### Windows8/ Windows Server 2012 / Windows 10 でのインストールプログラムの起動

- アプリ環境では、インストール CD をセットし、「タップしてこのディスクに対して行う操作を選んでください」の表示を選ぶと、「メディアからプログラムのインストール/実行」画面が表示されます。「setup.exe の実行」を選びインストールプログラムを起動します。
- デスクトップ環境では、エクスプローラを起動し、インストールCD中にある **Setup.exe** をダブルクリックし、インストールプログラムを起動します。
- (3) 言語を選択後、「OK(O)」ボタンをクリック(選択)します。
- (4) インストールの準備中画面を表示後、次の画面が表示されます。

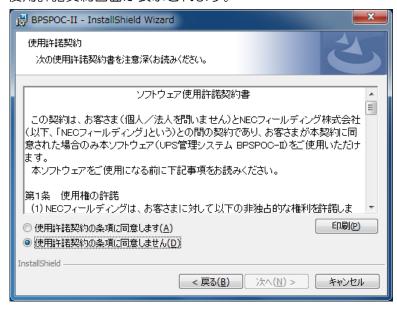


(5)「次へ(N)」ボタンをクリック(選択)します。

本画面以降、インストールを中断する場合は、インストール画面中の「キャンセル」 ボタンをクリックすることで、インストールを中断終了することができます。

## 3.1.2 製品のライセンス

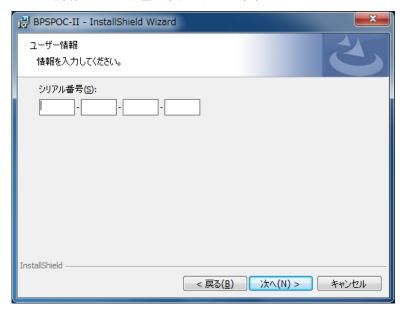
(1) 使用許諾契約画面が表示されます。



(2) 使用許諾契約に同意され、インストールを続ける場合は、「使用許諾契約の条項に同意します(A)」を選択し、「次へ(N)」ボタンをクリック(選択)します。

## 3.1.3 ユーザ情報の入力

(1) ユーザ情報の入力画面が表示されます。



- (2) 「シリアル番号(S)」を入力します。 シリアル番号は、BPSPOC-IIのインストールCDケースに記載されています。
- (3) 「次へ(N)」ボタンをクリック(選択)します。

## 3.1.4 インストール先フォルダの確認

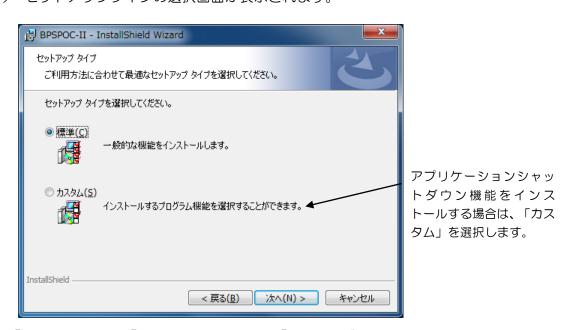
(1) インストール先を確認する画面が表示されます。



(2) インストール先を確認後、「次へ(N)」ボタンをクリック(選択)します。

## 3.1.5 セットアップタイプの選択

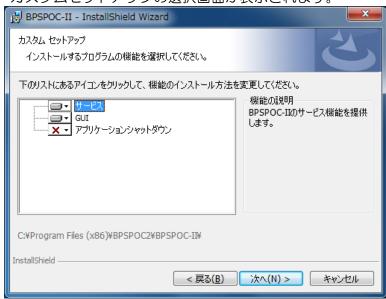
(1) セットアップタイプの選択画面が表示されます。



(2)「標準(C)」、または「カスタム(S)」を選択し、「次へ(N)」ボタンをクリック(選択)します。

## 3.1.6 追加機能の選択(セットアップタイプ:「カスタム」選択時)

(1) カスタムセットアップの選択画面が表示されます。



アプリケーションシャットダウン機能をインストールするか設定します。 (アプリケーションシャットダウン機能の追加は、インストール後でも行えます。)

(2) 「**次へ(N)」**ボタンをクリック(選択) します。

## 3.1.7 インストール開始の確認とインストール

(1) ハードディスク上にBPSPOC-IIのファイルがコピーされます。



(2) 「インストール(<u>I</u>)」ボタンをクリック(選択)すると、インストールが開始します。 インストールには、数分かかる場合があります。そのままお待ちください。

インストール先に十分な空き容量が無い場合、インストールできない場合があります。 動作環境として十分な空き容量があるか確認してください。

## 3.1.8 インストールの終了

(1) インストールの完了画面が表示されます。



(2) 「完了(F)」ボタンをクリック(選択)すると、インストールプログラムは終了します。 「設定ウィザードを起動します」にチェックをつけた状態で、「完了(F)」ボタンをクリック(選択)すると、引き続いて設定ウィザードが起動します。 設定ウィザードについては、「4.1 設定ウィザード機能(GUI版設定ツール)」を参照してください。

インストール完了後、設定ウィザード機能を使用し、UPSにコンピュータを登録することで停電時等の自動シャットダウンが行えます。

インストール後のツール画面起動について(Windows 8 / Windows Server 2012 の場合)

Windows 8 / Windows Server 2012 へ BPSPOC-II をインストールすると、「スタート」画面、および「アプリ」画面に「BPSPOC-II」のタイルが作成されます。

このタイルをクリックすると BPSPOC-II のツール画面が起動します。

#### 3.2 UNIX (Solaris) の場合

以降の操作は、管理者権限(root 権限)を持ったユーザで実施してください。

#### 3.2.1 インストールプログラムの起動

- (1) CD-ROMドライブにBPSPOC-II for UNIXのインストールCDをセットします。
- (2) インストールCDがマウントされているディレクトリを確認します。 インストールCDが自動マウントされていない場合は、CD-ROMデバイスを、mount コマンドを使い適当なディレクトリにマウントします。 (mountコマンドの詳細については、マニュアル等を参照してください。)
- (3) インストールCDをマウントしているディレクトリに移動します。 ご使用のOSバージョンにあったディレクトリに移動してください。 (インストールCDのマウント先が /cdromの場合)

#### <SPARC版の場合>

- •Solaris10以降を使用している場合
- # cd /cdrom/bpspoc2\_u/solaris/sparc/solaris\_10 <Return>
- \*Solaris8、Solaris9を使用している場合
- # cd /cdrom/bpspoc2\_u/solaris/sparc/solaris\_8\_9 < Return>

#### <x86版の場合>

- •Solaris10以降を使用している場合
- # cd /cdrom/bpspoc2\_u/solaris/x86 <Return>
- (4) pkgaddコマンドを使い、インストールを行います。上記(3)にて移動したディレクトリには、以下のディレクトリがあります。

**SANYupsd** (UPS管理システム・パッケージ)

pkgaddコマンドを使い、SANYupsdをインストールします。 (pkgaddコマンドの詳細については、マニュアル等を参照してください。) 次項「3.2.2 インストール」にて、pkgaddコマンドを使用したインストールの一例 を示します。

## 3.2.2 インストール (Solaris 10以降)

以下は、pkgaddコマンドを利用したインストールの一例です。 インストール中に入力必要な箇所は 入力値 で示しています。 以下では、SPARC版 Version 3.0.0を参考にしています。

# pkgadd -d . <Return>

The following packages are available:

1 SANYupsd BPSPOC-II (sparc) 3.0.0

パッケージの内容は、以下の通りです。 SANYupsd:UPS 管理ソフト

Select package(s) you wish to process (or 'all' To process all packages). (default: all) [?,??,q]: 1

BPSPOC-II 本体をインストールする場合は、「1」を選択します。 終了する場合は、「q」を選択します。

</cdrom/bpspoc2\_u/solaris/sparc/solaris\_10> 中のパッケージインスタンス <SANYupsd> を処理中です。

BPSPOC-II(sparc) 3.0.0 NEC Fielding,Ltd.

シリアル番号を入力してください:XXXX-XXXX-XXXX-XXXX

CD-ROM に記載されているシリアル No を入力します。

/usr/sg4

このディレクトリにインストールするときはRETURNキーを押してください。 またはインストール先のディレクトリを入力してください。

/usr/local/ups

上記は、/usr/local/ups をインストール先にした場合です。 インストール先のディレクトリを入力し、インストール先を指定する ことができます。インストール先を指定せずに RETURN キーを押すと /usr/sg4 がインストール先のディレクトリになります。 GUI ツールを使用する場合、インストール先ディレクトリには約12 Oメガバイト以上の空き容量が必要です。

#### 日本語版・英語版どちらをインストールしますか [jp or us] jp

日本語版をインストールする場合は、'jp'を入力します。 英語版をインストールする場合は、'us'を入力します。

#### GUIツールをインストールしますか [y/n] y

GUI ツールをインストールする場合は、'y' を入力します。

選択されたベースディレクトリ 〈/usr/local/ups〉 は、インストール 前に存在している必要があります。

#### 今このディレクトリを作成しますか [y,n,?,q] y

'v' を入力します。

</usr/local/ups>をパッケージのベースディレクトリとして使用します。

- ## パッケージ情報を処理中です。
- ## システム情報を処理中です。
  - 3 個のパッケージパス名がすでに正しくインストールされています。
- ## ディスク領域の要件を確認中です。
- ## すでにインストール済みのパッケージとの重複を確認中です。
- ## setuid/setgid を行うプログラムを検査中です。

このパッケージには、パッケージのインストール処理中にスーパーユーザーのアクセス権で実行するスクリプトが含まれています。

#### <SANYupsd> のインストールを継続しますか [y,n,?] y

'y' を入力します。

BPSPOC-II を 〈SANYupsd〉 としてインストール中です。

## 1/1 部分をインストールしています。 /usr/local/ups/bin/libSGSvcIf.so /usr/local/ups/bin/libsgshared.so

<以下、必要なファイルがコピーされます>

<インストールの終了について>

インストール処理が完了すると、はじめのインストールパッケージ選択画面が再表示されます。 'q' を入力してインストールパッケージ選択を終了します。

#### <サービスの自動起動について>

Solaris10、Solaris11へBPSPOC-IIをインストールした場合、インストーラの動作の中でサービスの自動起動が行われます。インストール後、サービス起動のためのコンピュータ再起動は特に必要ありません。

## 3.2.3 インストール (Solaris8、Solaris9用)

以下は、pkgaddコマンドを利用したインストールの一例です。 インストール中に入力必要な箇所は 入力値 で示しています。 以下では、Solaris8、9用のSPARC版 Version 3.0.0を参考にしています。

# pkgadd -d . <Return>

#### 次のパッケージを利用できます:

1 SANYupsd BPSPOC-II (sparc) 3.0.0

パッケージの内容は、以下の通りです。 SANYupsd:UPS 管理ソフト

パッケージ (複数可) を選択してください。 (すべてのパッケージを処理するには 'all' を入力してください)。 (default: all) [?,??,q]: 1

> BPSPOC-II をインストールする場合は、「1」を選択します。 終了する場合は、「q」を選択します。

</cdrom/bpspoc2\_u/solaris/sparc/sparc\_8\_9> 中のパッケージインスタンス <SANYupsd> を処理中です。

BPSPOC-II (sparc) 3.0.0 NEC Fielding,Ltd.

シリアル番号を入力してください:XXXX-XXXX-XXXX

CD-ROM に記載されているシリアル No を入力します。

/usr/sg4

このディレクトリにインストールするときはRETURNキーを押してください。 またはインストール先のディレクトリを入力してください。

/usr/local/ups

上記は、/usr/local/ups をインストール先にした場合です。 インストール先のディレクトリを入力し、インストール先を指定する ことができます。インストール先を指定せずに RETURN キーを押すと /usr/sg4 がインストール先のディレクトリになります。 GUI ツールを使用する場合、インストール先ディレクトリには約12 0メガバイトの空き容量が必要です。

#### 日本語版・英語版どちらをインストールしますか [jp or us] jp

日本語版をインストールする場合は、'jp'を入力します。 英語版をインストールする場合は、'us'を入力します。

#### サービスを起動できるようにシステムファイルを書き換えてもよいですか [y/n] y

本製品の使用には、次のカーネルパラメータが設定されている必要があります。

shmsys:shminfo\_shmmax が 4169764 以上 msgsys:msginfo\_msgmax が 4096 以上 msgsys:msginfo\_msgmni が 128 以上 msgsys:msginfo\_msgtql が 200 以上

この質問に 'y' と入力して RETURN キーを押すと、インストーラはカーネルパラメータの設定ファイルである /etc/system を自動的に修正いたします。

既に、これらの値が適切に設定されている場合、もしくはお客様がご自分で修正をされる場合には、'n' と入力して RETURN キーを押してください。この場合は、カーネルパラメータは修正されません。カーネルパラメータを修正した場合は、OSの再起動が必要です。

#### GUIツールをインストールしますか [y/n] y

GUI ツールをインストールする場合は、'y'を入力します。

#### 自動起動スクリプトをインストールしますか [y/n] y

'y'を入力します。

選択されたベースディレクトリ 〈/usr/local/ups〉 は、インストール 前に存在している 必要があります。

#### 今このディレクトリを作成しますか [y,n,?,q] y

'y'を入力します。

</usr/local/ups>をパッケージのベースディレクトリとして使用します。

- ## パッケージ情報を処理中です。
- ## システム情報を処理中です。
  - 6 個のパッケージパス名がすでに正しくインストールされています。
- ## ディスク領域の要件を確認中です。
- ## すでにインストール済みのパッケージとの重複を確認中です。
- ## setuid/setgid を行うプログラムを検査中です。

このパッケージには、パッケージのインストール処理中にスーパーユーザーのアクセス権で実行するスクリプトが含まれています。

<SANYupsd> のインストールを継続しますか [y,n,?] y

'y'を入力します。

BPSPOC-II を 〈SANYupsd〉 としてインストール中です。

## 1/1 部分をインストールしています。

/usr/local/ups/bin/libSGSvcIf.so /usr/local/ups/bin/libsgshared.so

•

く以下、必要なファイルがコピーされます>

<インストールの終了について>

インストール処理が完了すると、はじめのインストールパッケージ選択画面が再表示されます。 'q'を入力してインストールパッケージ選択を終了します。

#### 3.2.4 コンピュータの再起動

Solaris 8、9用のBPSPOC-IIをインストールした後、正常起動するには、コンピュータの再起動が必要です。コンピュータの再起動後、「4. セットアップ」を参照し、UPSの登録作業を行ってください。

## 3.3 Linuxの場合

以降の操作は、管理者権限(root 権限)を持ったユーザで実施してください。

## 3.3.1 インストールプログラムの起動

- (1) CD-ROMドライブにBPSPOC-II for LinuxのインストールCDをセットします。
- (2) インストールCDをマウントします。 インストールCDが自動マウントされていない場合は、CD-ROMデバイスをmount コマンドを使い適当なディレクトリにマウントします。
  - 例) mount -r /dev/cdrom /mnt/cdrom

(mountコマンドの詳細については、マニュアル等を参照してください。)

- (3) インストールCDをマウントしているディレクトリに移動します。 (CD-ROMのマウント先が /mnt/cdromの場合)
  - 32ビットOSの場合、またはVMware ESX Server 3.0、3.5ホストの場合
    - # cd /mnt/cdrom/linux\_32 <Return>
  - ・64ビットOS(x64)の場合、またはVMware ESX Server 4.0、4.1ホストの場合
    - # cd /mnt/cdrom/linux x64 <Return>
  - •64ビットOS (Itanium) の場合
    - # cd /mnt/cdrom/linux\_ia64 <Return>
- (4) インストールプログラムを起動します。
  - # ./install <Return>

下記の画面が表示されます。



(注) 既に旧バージョンを含むBPSPOC→IIが動作中の場合は、インストールプログラムは動作しません。再インストールを行う場合は、一度、プログラムのアンインストールを行った後、再インストールを実施してください。

## 3.3.2 インストール

- インストール先ディレクトリ(Install Directory)
- ・インストール形態 (Install GUltool)
- 言語環境 (System Locale)
- ・シリアル番号 (Serial Number)

を設定し、インストールを行います。

VMware ESX Server のコンソールには、日本語メッセージが表示できないため、インストール時の言語環境(System Locale)の設定は、'en\_US(C)'を選択して、英語版をインストールすることをお勧めします。



- (1) インストール先ディレクトリを設定します。(デフォルト値:/usr/bp2) BPSPOC-IIをインストールするディレクトリを指定します。 設定したディレクトリが無い場合は、新規作成します。 (BPSPOC-II専用ディレクトリにインストールすることをお奨めします。)
- (2) インストール形態を選択します。(デフォルト値:Yes) GUIツールをインストールするか否かを選択します。 X-Windowが動作しない環境などでGUI版のツールを使用しない場合は、「No」を選択します。(スペース・キーを押すと、Yes/Noが切り替わります。)

(3) 言語環境を選択します。(デフォルト値:システム言語による) システム環境にあったロケールを選択します。 システムロケールは、localeコマンドにより確認できます。

> 「EUC-JP」、「UTF-8」、「en\_US」から使用する言語を選択します。 (スペース・キーを押すと、ロケールが切り替わります)

「EUC-JP」または「UTF-8」を選択した場合、日本語版がインストールされます。「en\_US」を選択した場合、英語版がインストールされます。

- (4) シリアル番号を入力します。インストールCDケースに記載されているシリアル番号を入力します。
- (5) インストールを実行します。 上記3項目を設定したら、矢印キーを使い、「INST」にカーソルを移動します。 インストールを実行しても良い場合は、スペース・キーを押してください。 ファイルをディスク上にコピーします。そのままお待ちください。
- (6) インストールの完了。
  「Install Completed.」が表示されたら、インストール完了です。

## 3.3.3 コンピュータの再起動

Linuxへ BPSPOC-IIをインストールした後、正常起動するには、コンピュータの再起動が必要です。コンピュータの再起動後、「4. セットアップ」を参照し、UPSの登録作業を行ってください。

## 4. セットアップ

BPSPOC-IIをインストールした後、以下の「4.1 設定ウィザード機能(GUI版設定ツール)」を使い、接続するUPSを登録します。(ウインドウ環境を使用しない場合、またはVMware ESX Serverホストの場合は、「4.2 設定ウィザード機能(CUI版設定ツール)」を参照して、接続するUPSを登録してください)

この登録作業完了後に、BPSPOC-IIは、通常動作を始めます。

## 4.1 設定ウィザード機能(GUI版設定ツール)

BPSPOC-IIをインストールしたコンピュータにおいて、接続UPSが未登録の状態(インストール直後、または接続装置の削除による)でBPSPOC-IIを起動すると、設定ウィザードが自動起動されますので、接続UPSの登録作業を行ってください。

設定ウィザードで登録する内容は、登録作業後にも変更することができます。

UPS登録には、次の3通りのいずれかとしてコンピュータを登録します。

登録種別	参照項目	備考
UPSとのサーバ接続	4.1.1	<b>%</b> 1
UPSとのクライアント接続	4.1.2	<b>%</b> 2
UPSとのネットワーク接続	4.1.3	<b>%</b> 3

- (※1) UPSと直接シリアル接続、または接点接続されているコンピュータの場合
- (※2)上記(※1)のコンピュータとネットワークで接続されているコンピュータの場合
- (※3) LANインタフェースカードを組み込んだUPSとネットワークで接続されているコンピュータの場合

該当する登録方法の項へ進み、セットアップを行ってください。

本項で使用している画面イメージは、Windows 版のものを使用しています。 フォントによる表示の違い以外は、メッセージ内容、動作共に全く同一です。

## 4.1.1 UPSとサーバ接続した場合のセットアップ

UPSとBPSPOC-IIをインストールしたコンピュータがシリアルケーブルで接続されている場合、以下の手順でセットアップを行います。

注意:ウィザード設定を行う前には、UPSとコンピュータ間はシリアルケーブルで接続されている必要があります。

#### (A) BPSPOC-II (接続ウィザード) の起動

Windowsの場合タスクバーの[スタート]ボタンー[すべてのプログラム]ー[BPSPOC-II]ー[BPSPOC-II]を 選択します。

#### く情報>

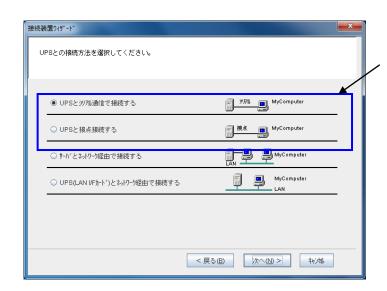
Windows Server 2008、Windows Server 2012、または Windows Server 2016 を Server Core で使用している場合、BPSPOC-II インストール先フォルダに移動し、コマンドラインから"sg4 0"を実行します。

Windows以外のOSの場合BPSPOC-IIインストール先ディレクトリに移動し、"./sg4 0"を実行します。



BPSPOC-II 起動後、 左図の画面が表示されます。 「次へ(N)」ボタンをクリックし、 次画面(UPS 接続方法の選択) へ移ります。

### (B) UPS接続方法の選択



UPSとの<u>接続方法</u>を選択します。 UPSとのサーバ接続の場合、 シリアル通信または接点接続を 選択します。

「**次へ(<u>N</u>)」**ボタンをクリックし、 次画面(UPS 使用環境の選択) へ移ります。

接続方法	説明
シリアル通信で接続 する	シリアルインタフェース付きUPS、またはシリアルインタフェースカードをUPSにセットして使用する場合に設定します。
接点接続する	UPS本体の「外部転送信号」コネクタ(接点接続用)を使用し、 コンピュータと接続する場合に設定します。

### 設定時の注意

本設定の内容は、後で設定変更することはできません。(変更する場合は、登録情報を削除し、再登録が必要になります)

## (C) UPS使用環境の選択



本コンピュータで使用する<u>環境</u> <u>を選択</u>します。

(下記の表を参照してください) 「次へ(N)」ボタンをクリックし、 次画面(シリアルケーブルの 接続設定)へ移ります。

BPSPOC-II 使用環境	使用マシンの環境
ネットワーク環境を 使用する	・クライアントコンピュータを接続する場合 ・E-mail、BPSPOC-II COMBINATIONなどで 監視する場合
ネットワーク環境を 使用しない	<ul><li>・ネットワーク環境がインストールされていない場合</li><li>・クライアントコンピュータを接続しない場合</li><li>・ファイアウォールマシンにインストールするなどの理由で、ネットワークを使用したくない場合</li></ul>

### (D) シリアルケーブルの接続設定

#### (a)シリアル接続の場合



使用するコンピュータの<u>シリアル</u>ポート番号を選択します。
「自動検出」ボタンを使用すると、
UPSとシリアル接続されている
シリアルポート番号を検出できます。
「次へ(N)」ボタンをクリックし、
次画面(UPSアカウント情報入力)
へ移ります。

### (b)接点接続の場合



接続するUPS種別を「機種名選択」 リスト (\*\*) から選択してください。 (選択UPSに合った信号設定が 自動設定されます)

「**次へ(<u>N</u>)」**ボタンをクリックし、 次画面(UPS アカウント情報入力) へ移ります。

(※)「機種名選択」リストに無いUPSをお使いの場合は、「その他」を選択し、そのUPSの外部転送信号の極性情報を設定してください。

### 使用ケーブルについて

接点接続により UPS と接続する場合、専用の接続ケーブルが必要になる場合があります。

## COMポート選択について

お使いのコンピュータのシリアルポート表記がA, B、…となっている場合は、 Aポートを1, Bポートを2と読み替えて接続するシリアルポートを選択してください。

### (E) UPSアカウントの入力



UPS管理者アカウントを入力します。 デフォルト設定値の、

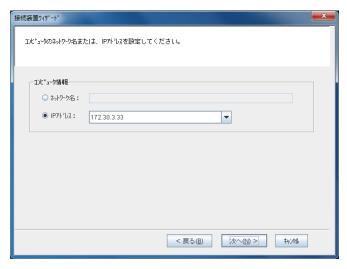
管理者: upsadmin パ゚スワード: UpsAdmin <sup>(※1)</sup> を入力してください。

「OK」ボタンをクリックします。

ユーザ認証確認後、次画面へ移ります。

(※1) パスワードは、大文字/小文字の 区別を行います。

### (F) コンピュータ情報の入力-1



本画面は「(C) UPS の使用環境の選択」 画面にて「ネットワークを使用する」を 選択した場合に表示します。

本コンピュータのアドレス情報をネットワーク名で入力、または使用するIPアドレスを選択します。

「次へ(N)」ボタンをクリックし、 次画面(コンピュータ情報の入力-2) へ移ります。

### 表示される IP アドレスについて

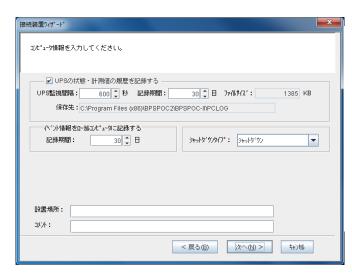
お使いのコンピュータが IPv6 環境で使用可能な場合 (BPSPOC-II の IPv6 対応 OS である場合) は、コンピュータのネットワーク設定において有効になっている IPv4/IPv6 のアドレスが一覧表示されます。

他のコンピュータを「クライアント版」として接続する場合は、そのコンピュータと接続可能な IP アドレスを選択してください。

#### 設定時の注意

本設定の内容は、後で設定変更することはできません。(変更する場合は、登録情報を削除し、再登録が必要になります)

### (G) コンピュータ情報の入力-2



UPSの履歴情報の保存条件、シャット ダウンタイプ (\*1) ならびに設置場所な どの付属情報を設定します。

コンピュータの「設置場所」、「コメント」 は空白のまま、次に進んでも問題ありま せん。

「**次へ(<u>N</u>)」**ボタンをクリックし、次画面 へ移ります。

### く情報>

- UPS に複数台のコンピュータを接続して管理する場合、「設置場所」、「コメント」 を入力してあると、管理が容易になります。
- セットアップ完了後、設定画面から設定内容を変更することができます。設定方法は、ユーザガイド「6.機能説明」を参照してください。

### (※1)シャットダウンタイプの種類と使い方

シャットダウンタイプ	説明
シャットダウン	コンピュータをシャットダウンします。
シャットダウンと電源OFF	コンピュータをシャットダウン後、コンピュータの電源をOFFします。ここでいう電源OFFとはUPSの出力OFFではなく、コンピュータ自身の電源OFFです。 (ACPI[Advanced Configuration and Power Interface]対応のWindowsのみ設定できます。)
休止	コンピュータを休止します。(お使いのコンピュータが「休止」をサポートしている場合) スケジュール運転を行う場合は、この設定はしないでください。この設定を使用してスケジュール運転を行うと、休止・再開に伴うポップアップ・メッセージが蓄積します。

#### <情報>

Windows を使用し、復電後にコンピュータの自動起動を行う場合は、「付録A Windows 版をお使いになる際の注意事項」の「コンピュータの自動起動機能の制約について」を参照してください。

### (H) UPS出力コンセント接続設定

本画面は、接続するUPSが複数系統出力機能を持っている、かつ、シリアルケーブルの接続設定が「UPSとシリアル通信で接続する」の場合に表示されます。

複数系統出力機能を持っていないUPS、またはシリアルケーブルの接続設定が「UPSと接点接続する」の場合、本画面は表示されません。その場合、コンセント番号は自動的に「1」 固定となります。



コンピュータを接続しているUPS の出力コンセント番号を選択しま す。

(UPSの「OUTPUT1」に接続している場合は、コンセント番号「1」を選択します。)

「**次へ(<u>N</u>)」**ボタンをクリックし、 次画面へ移ります。

復電時の自動起動、スケジュール制御などを行う場合は、「常時出力」コンセント には、コンピュータを接続しないようにしてください。

### (I) UPS制御情報設定-1(シャットダウン開始条件)



UPSの制御に関する設定を 行います。

設定後、「**次へ(<u>N</u>)」**ボタンを クリックし、次画面(UPS 制御情報設定-2)へ移ります。

停電状態が「確認時間」の間継続した場合に、コンセント番号「1」、「2」、「常時出力」 (コンセント番号「O」)の各コンセントに登録されているコンピュータが、シャットダウンシーケンスを行うかどうかを設定します。

(複数系統出力機能を持っていないUPSの場合、コンセント番号「1」のみ設定可能となります。)

#### ・コンセント番号にチェックを入れた場合

チェックを入れたコンセント番号に接続/登録されているコンピュータは、停電 時のシャットダウンシーケンスを行います。

#### コンセント番号のチェックをはずした場合

チェックを入れたコンセント番号に接続/登録されているコンピュータは、停電時のシャットダウンシーケンスは行いません。 (バッテリ電圧低下発生時にシャットダウンを行います)

なお、「停電確認時間経過後、シャットダウンする」のチェックをはずした場合、全てのコンピュータは、バッテリ電圧低下発生まで停電時のシャットダウンシーケンスは行いません。

(但し、「バッテリ電圧低下発生時にシャットダウンする」のチェックを外した場合は、バッテリ電圧低下発生となってもシャットダウンは行われません。)

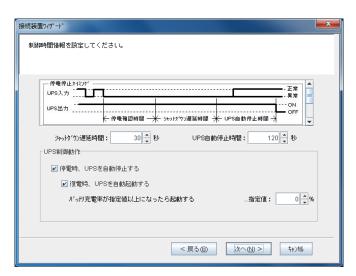
#### <注意>

「停電確認時間経過後、シャットダウンする」、「バッテリ電圧低下発生時にシャットダウンする」の両方のチェックを外した場合、停電時コンピュータのシャットダウンは行われません。

長時間の停電の場合は、自動シャットダウン行わずに、バッテリ放電終止により UPS 停止となる場合があります。

この2つの設定項目のチェックを外す場合は、動作を理解した上で行ってください。

### (J) UPS制御情報設定-2



前画面に引き続いてUPSの 制御に関する設定を行います。

設定後、**「次へ(<u>N</u>)」**ボタンを クリックし、次画面(設定 情報確認)へ移ります。

### (K) 設定情報確認

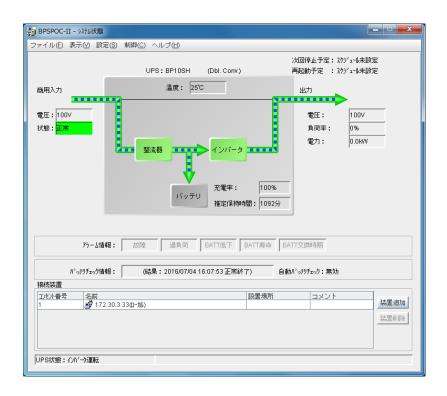


ウィザード機能で設定した内容を確認する画面です。

設定内容がよろしければ**「実行(<u>G</u>)」** ボタンをクリックしてください。

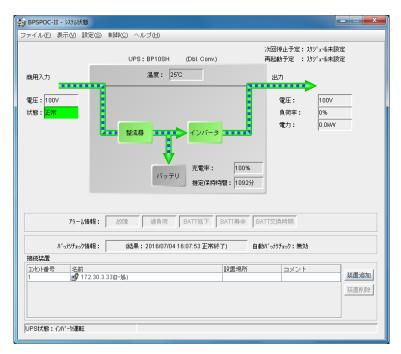
設定内容を変更したい場合は、「**戻る(<u>B</u>)」**ボタンをクリックし、 該当する画面まで戻ってください。

### ↓ 「実行(G)」ボタンをクリック(設定完了)



設定ウィザードによる設定が完了すると、BPSPOC-IIメイン画面(システム状態画面)が表示されます。

### (L) 自コンピュータの接続を確認



「接続装置」に、自コンピュータが表示されます。

(ローカル) と付いているコンピュータが自コンピュータになります。

### (M) 接続確認

- ①UPSの入力をOFFするなどの擬似停電を発生させます。
- ②停電発生メッセージが画面表示されることを確認します。
- ③メッセージ表示後、直ちに擬似停電を復旧します。

擬似停電発生後、停電発生のメッセージが表示されない場合、以下の確認を 行ってください。

- UPSとのシリアルケーブルが正しく接続されているか
- ・BPSPOC-II サービスプログラムが動作しているか (サービスの動作は、「ユーザガイド」の「付録A. サービスの操作」を参照 してください)
- コンピュータの再起動が必要な場合、再起動を行っているか

## 4.1.2 UPSとクライアント接続した場合のセットアップ

シリアルインタフェースを持ったUPSに複数台のコンピュータを接続する場合、BPSPOC-IIを<u>サーバ版</u>としてセットアップしたコンピュータ以外は<u>クライアント版</u>として、以下の手順でセットアップを行います。

### (A) BPSPOC-II (接続ウィザード) の起動

・Windowsの場合 タスクバーの[**スタート**]ボタンー**[すべてのプログラム]ー[BPSPOC-II]ー[BPSPOC-II]**を 選択します。

#### <情報>

Windows Server 2008、Windows Server 2012、または Windows Server 2016 を Server Core で使用している場合、BPSPOC-II インストール先フォルダに移動し、コマンドラインから "sg4 0"を実行します。

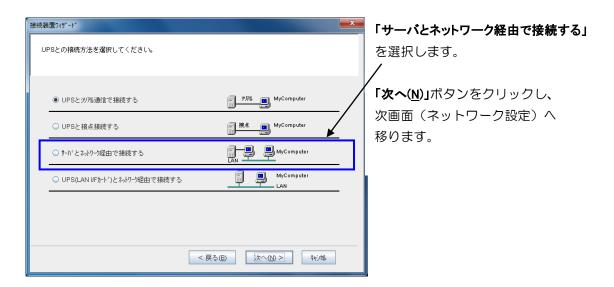
Windows以外のOSの場合BPSPOC-IIインストール先ディレクトリに移動し、"./sg4 0"を実行します。



BPSPOC-II を起動すると、 左図の画面が表示されます。

「**次へ(<u>N</u>)」**ボタンをクリックし、 次画面(UPS 接続方法の選択) へ移ります。

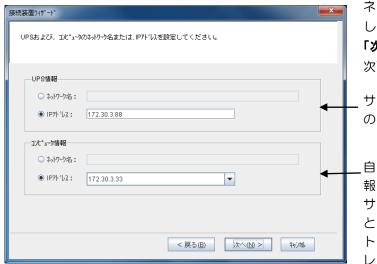
# (B) UPS接続方法の選択



### 設定時の注意

本設定の内容は、後で設定変更することはできません。(変更する場合は、登録情報を削除し、再登録が必要になります)

# (C) ネットワークの設定



ネットワーク接続する情報を設定します。

「**次へ(<u>N</u>)」**ボタンをクリックし、 次画面へ移ります。

サーバ接続しているコンピュータ のネットワーク情報を設定します。

自コンピュータのネットワーク情報を設定します。

サーバ接続しているコンピュータ とネットワーク接続ができるネッ トワーク名を入力、または IP アド レスを選択します。

設定項目	内容
UPS情報	サーバ接続するコンピュータのネットワーク情報を設定します。 ネットワーク名またはIPアドレスを設定 <sup>(※1)</sup>
コンピュータ情報	自コンピュータのネットワーク情報を設定します。 ネットワーク名またはIPアドレスを設定 <sup>(※1)</sup>

(※1) DHCPなどを使い、ネットワーク名による管理をしている場合は、「ネットワーク名」を使用してください。

### 表示される IP アドレス (コンピュータ情報) について

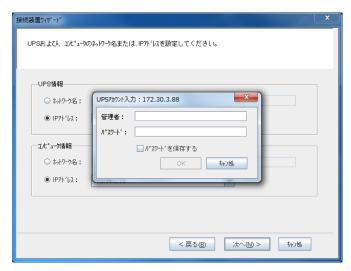
お使いのコンピュータが IPv6 環境で使用可能な場合 (BPSPOC-II の IPv6 対応 OS である場合) は、コンピュータのネットワーク設定において有効になっている IPv4/IPv6 のアドレスが一覧表示されます。

サーバ接続するコンピュータと接続可能な IP アドレスを選択してください。

### 設定時の注意

本設定の内容は、後で設定変更することはできません。(変更する場合は、登録情報を削除し、再登録が必要になります)

### (D) UPSアカウントの入力



UPS管理者アカウントを入力します。 デフォルト設定値の、

管理者: upsadmin パスワード: UpsAdmin <sup>(※1)</sup> を入力してください。

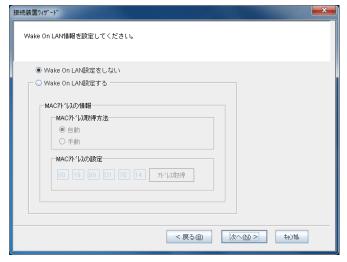
「OK」ボタンをクリックします。

ユーザ認証確認後、次画面へ移ります。

(※1) パスワードは、大文字/小文字の区別を行います。

### (E) Wake On LAN の設定

お使いのコンピュータが Wake On LAN 機能に対応している場合、UPSからの電源供給後、コンピュータの電源自動投入が可能になります。



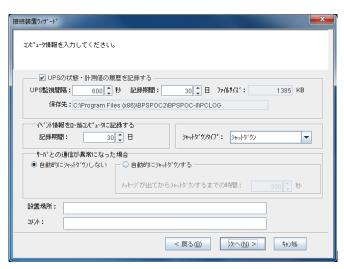
Wake On LAN 機能の設定を行います。
(コンピュータ環境がわからない場合は、「設定をしない」としてください。
この設定の有無は、UPS管理システムの動作には影響しません。)

「**次へ(<u>N</u>)」**ボタンをクリックし、 次画面(コンピュータ情報入力) へ移ります。

### <情報>

セットアップ完了後、本画面の設定内容を変更することができます。 設定方法は、ユーザガイド「6.機能説明」を参照してください。

### (F) コンピュータ情報の入力



UPSの履歴情報の保存条件、

シャットダウンタイプ (\*\*1) ならびに設置場所などの付属情報を設定します。 また、サーバとの通信接続が切れた場合の動作設定も行えます。

コンピュータの「設置場所」、「コメント」 は空白のまま、次に進んでも問題あり ません。

[**次へ**] ボタンをクリックし、次画面へ移ります。

#### く情報>

UPS に複数台のコンピュータを接続して管理する場合、「設置場所」、「コメント」を入力してあると、管理が容易になります。

#### (※1)シャットダウンタイプの種類と使い方

シャットダウンタイプ	説明
シャットダウン	コンピュータをシャットダウンします。
シャットダウンと電源OFF	コンピュータをシャットダウン後、コンピュータの電源をOFFします。ここでいう電源OFFとはUPSの出力OFFではなく、コンピュータ自身の電源OFFです。 (ACPI[Advanced Configuration and Power Interface]対応のWindowsのみ設定できます。)
休止	コンピュータを休止します。(お使いのコンピュータが「休止」をサポートしている場合) スケジュール運転を行う場合は、この設定はしないでください。この設定を使用してスケジュール運転を行うと、休止・再開に伴うポップアップ・メッセージが蓄積します。

#### <情報>

Windows を使用し、復電後にコンピュータの自動起動を行う場合は、「付録A Windows 版をお使いになる際の注意事項」の「コンピュータの自動起動機能の制約について」を参照してください。

### (G) UPS出力コンセント接続設定

本画面は、接続するUPSが複数系統出力機能を持っている、かつ、BPSPOC-IIのサーバ版の、シリアルケーブルの接続設定が「UPSとシリアル通信で接続する」の場合に表示されます。

複数系統出力機能を持っていないUPS、または BPSPOC-IIのサーバ版の、シリアルケーブルの接続設定が「UPSと接点接続する」の場合、本画面は表示されません。その場合、コンセント番号は自動的に「1」固定となります。



コンピュータを接続している UPS の出力コンセント番号を選 択します。

(UPS の「OUTPUT1」に接続 している場合は、コンセント番号 「1」を選択します。)

「**次へ(<u>N</u>)」**ボタンをクリックし、 次画面へ移ります。

復電時の自動起動、スケジュール制御などを行う場合は、「常時出力」コンセントには、コンピュータを接続しないようにしてください。

### (H) UPS制御情報設定-1(シャットダウン開始条件)



UPSの制御に関する設定を 行います。

設定後、「**次へ(<u>N</u>)」**ボタンを クリックし、次画面(UPS 制御情報設定-2)へ移ります。

停電状態が「確認時間」の間継続した場合に、コンセント番号「1」、「2」、「常時出力」 (コンセント番号「O」)の各コンセントに登録されているコンピュータが、シャットダウンシーケンスを行うかどうかを設定します。

(複数系統出力機能を持っていないUPSの場合、コンセント番号「1」のみ設定可能となります。)

- ・コンセント番号にチェックを入れた場合チェックを入れたコンセント番号に接続/登録されているコンピュータは、停電時のシャットダウンシーケンスを行います。
- コンセント番号のチェックをはずした場合 チェックを入れたコンセント番号に接続/登録されているコンピュータは、停電 時のシャットダウンシーケンスは行いません。(バッテリ電圧低下発生時に シャットダウンを行います)

なお、「停電確認時間経過後、シャットダウンする」のチェックをはずした場合、全てのコンピュータは、バッテリ電圧低下発生まで停電時のシャットダウンシーケンスは行いません。

(但し、「バッテリ電圧低下発生時にシャットダウンする」のチェックを外した場合は、バッテリ電圧低下発生となってもシャットダウンは行われません。)

#### <注意>

「停電確認時間経過後、シャットダウンする」、「バッテリ電圧低下発生時にシャットダウンする」の両方のチェックを外した場合、停電時コンピュータのシャットダウンは行われません。

長時間の停電の場合は、自動シャットダウン行わずに、バッテリ放電終止により UPS 停止となる場合があります。

この2つの設定項目のチェックを外す場合は、動作を理解した上で行ってください。

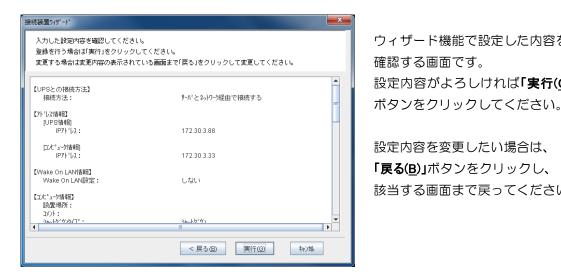
### (I) UPS制御情報設定-2



前画面に引き続いてUPSの 制御に関する設定を行います。

設定後、「**次へ(<u>N</u>)」**ボタンを クリックし、次画面(設定情 報確認)へ移ります。

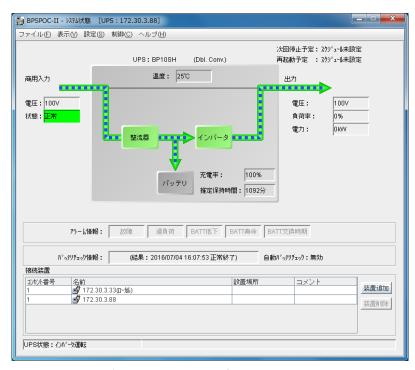
### (J) 設定情報確認



ウィザード機能で設定した内容を 確認する画面です。 設定内容がよろしければ「実行(G)」

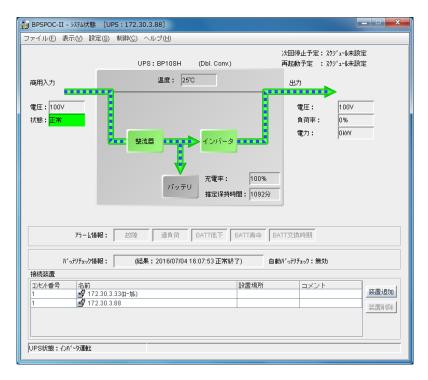
設定内容を変更したい場合は、 「戻る(B)」ボタンをクリックし、 該当する画面まで戻ってください。

# 「実行(G)」ボタンをクリック(設定完了)



設定ウィザードによる設定が完了すると、BPSPOC-IIメイン画面(システム状態画面) が表示されます。

### (K) 自コンピュータの接続を確認



「接続装置」に、自コンピュータが表示されます。

(ローカル)と付いているコンピュータが自コンピュータになります。

#### (L) 接続確認

- ①UPSの入力をOFFするなどの擬似停電を発生させます。
- ②停電発生メッセージが画面表示されることを確認します。
- ③メッセージ表示後、直ちに擬似停電を復旧します。

擬似停電発生後、停電発生のメッセージが表示されない場合、以下の確認を 行ってください。

- UPSとのシリアルケーブルが正しく接続されているか
- ・BPSPOC-II サービスプログラムが動作しているか (サービスの動作は、「ユーザガイド」の「付録A. サービスの操作」を 参照してください)
- ファイアウォールが正しく設定されているか (「付録」に Windows、および主な Linux バージョンのファイアウォール設定 について記載がありますので参照してください。)
- ・コンピュータの再起動が必要な場合、再起動を行っているか

### <情報>

シャットダウンテスト機能を使用し、このコンピュータ単体でシャットダウン確認 を行うことができます。

## 4.1.3 UPSとネットワーク接続した場合のセットアップ

LANインタフェースカードを組み込んだUPSにコンピュータを接続する場合、以下の手順でセットアップを行います。

#### セットアップをはじめる前に(1)

使用するUPS(LANインタフェースカード)には、使用する環境に合わせたIPアドレスが設定されている必要があります。IPアドレスの設定が済みましたらセットアップをはじめてください。(設定の詳細は、LANインタフェースカード「取扱説明書」、または「ユーザガイド」を参照してください。)

#### セットアップをはじめる前に(2)

Windows Server 2012、または Windows Server 2016 をお使いの場合で、IPv6 未対応の LAN インタフェースカードにネットワーク接続して使用する際は、「付録 A Windows 版をお使いになる際の注意事項」の「Windows Server 2012 から LAN インタフェースカードにネットワーク接続する場合の注意」を参照してからセットアップをはじめてください。

### (A) BPSPOC-II (接続ウィザード) の起動

Windowsの場合タスクバーの[スタート]ボタンー[すべてのプログラム]ー[BPSPOC-II]ー[BPSPOC-II]を 選択します。

### <情報>

Windows Server 2008、Windows Server 2012、または Windows Server 2016 を Server Core で使用している場合、BPSPOC-II インストール先フォルダに移動し、コマンドラインから"sg4 0"を実行します。

Windows以外のOSの場合BPSPOC-IIインストール先ディレクトリに移動し、"./sg4 0"を実行します。



BPSPOC-II を起動すると、 左図の画面が表示されます。

「次へ(N)」ボタンをクリックし、 次画面(UPS 接続方法の選択) へ移ります。

### (B) UPS接続方法の選択



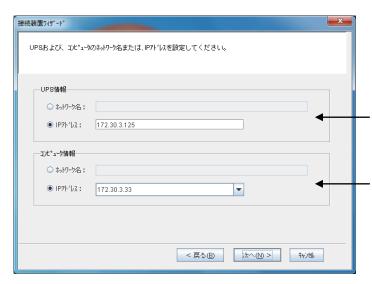
「UPS (LAN I/F カード)とネットワーク 経由で接続する」を選択します。

「**次へ(<u>N</u>)」**ボタンをクリックし、 次画面(ネットワーク設定)へ 移ります。

### 設定時の注意

本設定の内容は、後で設定変更することはできません。(変更する場合は、登録情報を削除し、再登録が必要になります)

### (C) ネットワークの設定



ネットワーク接続する情報を 設定します。

「**次へ(<u>N</u>)」**ボタンをクリックし、 次画面へ移ります。

LAN インタフェース付き UPS に 設定してあるネットワーク情報を 設定します。

自コンピュータのネットワーク情報を設定します。

LAN インタフェースカードと ネットワーク接続ができるネット ワーク名を入力、またはIPアドレ スを選択します。

設定項目	内容
UPS情報	LANインタフェース付きUPSに設定してあるネットワーク情報 を設定します。 ネットワーク名またはIPアドレスを設定 <sup>(※1)</sup>
コンピュータ情報	自コンピュータのネットワーク情報を設定します。 ネットワーク名またはIPアドレスを設定 <sup>(※1)</sup>

(※1) DHCPなどを使い、ネットワーク名による管理をしている場合は、

「ネットワーク名」を使用してください。

### 表示される IP アドレス (コンピュータ情報) について

お使いのコンピュータが IPv6 環境で使用可能な場合 (BPSPOC-II の IPv6 対応 OS である場合) は、コンピュータのネットワーク設定において有効になっている IPv4/IPv6 のアドレスが一覧表示されます。

LAN インタフェースカードと接続可能な IP アドレスを選択してください。

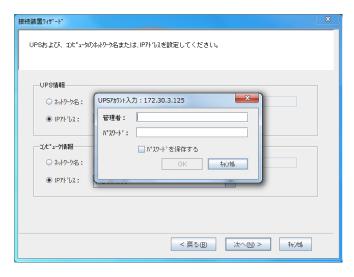
#### 設定時の注意

本設定の内容は、後で設定変更することはできません。(変更する場合は、登録情報を削除し、再登録が必要になります)

### UPS 情報のリンクローカルアドレス (IPv6) 使用について

LAN インタフェースカードに設定されているリンクローカルアドレスは、その LAN インタフェースカード固有のアドレスになります。将来、LAN インタフェースカードの交換を行うとリンクローカルアドレスも新しいアドレスが割り当てられます。BPSPOC-IIを接続する場合は、固定の IP アドレスを使用するようにしてください。

### (D) UPSアカウントの入力



UPS管理者アカウントを入力します。 デフォルト設定値の、

管理者: upsadmin パスワード: UpsAdmin <sup>(※1)</sup> を入力してください。

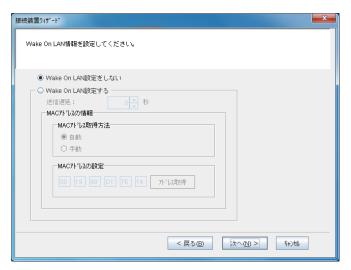
「OK」ボタンをクリックします。

ユーザ認証確認後、次画面へ移ります。

(※1) パスワードは、大文字/小文字の区別を行います。

### (E) Wake On LAN の設定

お使いのコンピュータがWake On LAN 機能に対応している場合、UPSからの電源供給後、コンピュータの電源自動投入が可能になります。



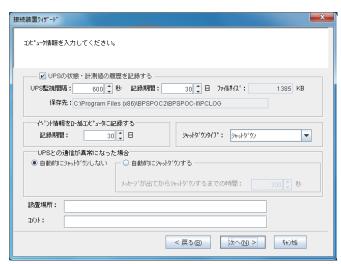
Wake On LAN 機能の設定を行います。 (コンピュータ環境がわからない場合 は、「設定をしない」としてください。 この設定の有無は、UPS管理システムの動作には影響しません。)

「次へ(N)」ボタンをクリックし、次画面 (コンピュータ情報入力) へ移ります。

#### <情報>

セットアップ完了後、設定画面から設定内容を変更することができます。設定方法は、ユーザガイド「6.機能説明」を参照してください。

## (F) コンピュータ情報の入力



UPSの履歴情報の保存条件、

シャットダウンタイプ (\*\*1) ならびに設置 場所などの付属情報を設定します。

また、LAN インタフェースカードとの通信接続が切れた場合の動作設定も行えます。

コンピュータの「設置場所」、「コメント」は 空白のまま、次に進んでも問題ありませ か。

「**次へ(<u>N</u>)」**ボタンをクリックし、次画面へ 移ります。

#### <情報>

UPS に複数台のコンピュータを接続して管理する場合、「設置場所」、「コメント」を入力してあると、管理が容易になります。

### (※1)シャットダウンタイプの種類と使い方

シャットダウンタイプ	説明
シャットダウン	コンピュータをシャットダウンします。
シャットダウンと電源OFF	コンピュータをシャットダウン後、コンピュータの電源をOFF します。ここでいう電源OFFとはUPSの出力OFFではなく、 コンピュータ自身の電源OFFです。 (ACPI[Advanced Configuration and Power Interface]対応の Windowsのみ設定できます。)
休止	コンピュータを休止します。(お使いのコンピュータが「休止」をサポートしている場合) スケジュール運転を行う場合は、この設定はしないでください。この設定を使用してスケジュール運転を行うと、休止・再開に伴うポップアップ・メッセージが蓄積します。

#### <情報>

Windows を使用し、復電後にコンピュータの自動起動を行う場合は、「付録A Windows 版をお使いになる際の注意事項」の「コンピュータの自動起動機能の制約について」を参照してください。

### (G) UPS出力コンセント接続設定

本画面は、LANインタフェースカードを組み込んだUPSが複数系統出力機能を持っている場合に表示されます。

LANインタフェースカードを組み込んだUPSが複数系統出力機能を持っていない場合、コンセント番号は自動的に「1」固定となります。



コンピュータを接続している UPS の出力コンセント番号を選択します。

(UPS の「OUTPUT1」に接続している場合は、コンセント番号「1」を選択します。)

「**次へ(<u>N</u>)」**ボタンをクリックし、 次画面へ移ります。

復電時の自動起動、スケジュール制御などを行う場合は、「常時出力」コンセントには、コンピュータを接続しないようにしてください。

#### (H) UPS制御情報設定-1(シャットダウン開始条件)



UPSの制御に関する設定を 行います。

設定後、「**次へ(<u>N</u>)」**ボタンを クリックし、次画面(UPS 制御情報設定-2)へ移ります。

停電状態が「確認時間」の間継続した場合に、コンセント番号「1」、「2」、「常時出力」 (コンセント番号「0」)の各コンセントに登録されているコンピュータが、シャットダウンシーケンスを行うかどうかを設定します。

(複数系統出力機能を持っていないUPSの場合、コンセント番号「1」のみ設定可能となります。)

コンセント番号にチェックを入れた場合

チェックを入れたコンセント番号に接続/登録されているコンピュータは、停電 時のシャットダウンシーケンスを行います。

コンセント番号のチェックをはずした場合

チェックを入れたコンセント番号に接続/登録されているコンピュータは、停電時のシャットダウンシーケンスは行いません。 (バッテリ電圧低下発生時にシャットダウンを行います)

なお、「停電確認時間経過後、シャットダウンする」のチェックをはずした場合、全てのコンピュータは、バッテリ電圧低下発生まで停電時のシャットダウンシーケンスは行いません。

(但し、「バッテリ電圧低下発生時にシャットダウンする」のチェックを外した場合は、バッテリ電圧低下発生となってもシャットダウンは行われません。)

#### <注意>

「停電確認時間経過後、シャットダウンする」、「バッテリ電圧低下発生時にシャットダウンする」の両方のチェックを外した場合、停電時コンピュータのシャットダウンは行われません。

長時間の停電の場合は、自動シャットダウン行わずに、バッテリ放電終止により UPS 停止となる場合があります。

この2つの設定項目のチェックを外す場合は、動作を理解した上で行ってください。

## (I) UPS制御情報設定-2



前画面に引き続いてUPSの 制御に関する設定を行います。

設定後、「**次へ(<u>N</u>)」**ボタンを クリックし、次画面(設定情 報確認)へ移ります。

### (J) 設定情報確認



ウィザード機能で設定した内容を確認する画面です。

設定内容がよろしければ**「実行(<u>G</u>)」** ボタンをクリックしてください。

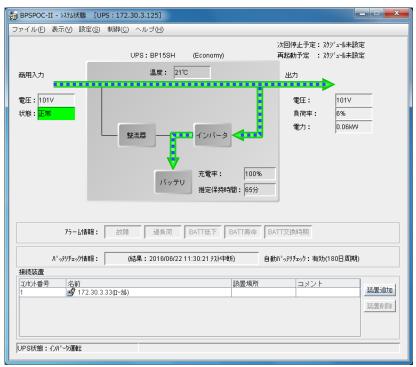
設定内容を変更したい場合は、「**戻る(<u>B</u>)」**ボタンをクリックし、 該当する画面まで戻ってください。

# ↓ **「実行(<u>G</u>)」**ボタンをクリック(設定完了)



設定ウィザードによる設定が完了すると、BPSPOC-IIメイン画面(システム状態画面)が表示されます。

### (K) 自コンピュータの接続を確認



「接続装置」に、自コンピュータが表示されます。

(ローカル)と付いているコンピュータが自コンピュータになります。

#### (L) 接続確認

- ①UPSの入力をOFFするなどの擬似停電を発生させます。
- ②停電発生メッセージが画面表示されることを確認します。
- ③メッセージ表示後、直ちに擬似停電を復旧します。

擬似停電発生後、停電発生のメッセージが表示されない場合、以下の確認を 行ってください。

- UPSとのLAN ケーブルが正しく接続されているか
- BPSPOC-II サービスプログラムが動作しているか (サービスの動作は、「ユーザガイド」の「付録A. サービスの操作」を 参照してください)
- ファイアウォールが正しく設定されているか (「付録」に Windows、および主な Linux バージョンのファイアウォール設定 について記載がありますので参照してください。)
- コンピュータの再起動が必要な場合、再起動が行われているか

#### <情報>

シャットダウンテスト機能を使用し、このコンピュータ単体でシャットダウン確認 を行うことができます。

## 4.2 設定ウィザード機能(CUI版設定ツール)

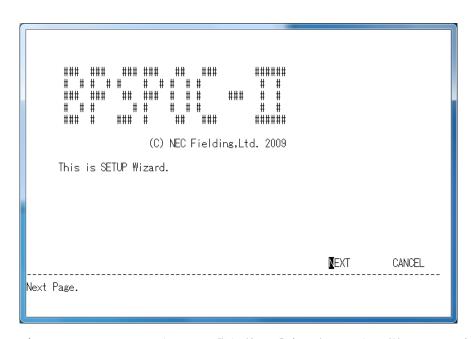
GUI(グラフィカル・ユーザ・インタフェース)環境が無い場合には、キャラクタ・ベースのツールにより設定を行うことが可能です。(UNIX、Linux使用時のみ)

本処理を行うことで、お使いのコンピュータが停電時に自動シャットダウンを行えるようになります。

接続ウィザードで登録する内容は、後から同ツールを使用し変更することができます。 この設定は、UPSサービスをインストールしたWSだけでなく、管理者用のリモートPC からも行うことができます。

# 4.2.1 接続UPSの登録(セットアップ)について

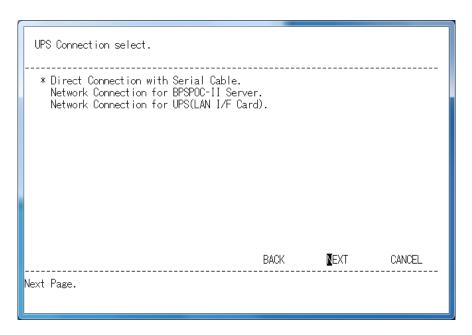
- (A) コンソールまたはターミナルからBPSPOC-IIインストールディレクトリ内の"./sg4setup"コマンドを入力して実行します。(※1)
- (B) 設定ウィザードが起動します。「NEXT」にカーソルをあわせ、スペースキーで決定して次の画面に進みます。(カーソルの移動は、矢印キーで行います)



(※1) sg4setup ツールは、UPS登録後の設定においても同様に利用できます。

(C) UPSとの接続方法を選択します。選択する接続方法にカーソルをあわせ、スペースキーで選択します。選択された接続方法には\*が付きます。

接続方法を選択したら「NEXT」にカーソルを移動し、スペースキーで決定します。



項目	説明
Direct Connection with Serial Cable.	UPSとシリアルケーブルで接続します。
Network Connection for BPSPOC-II Server.	サーバとネットワーク経由で接続します。 (UPSとシリアルケーブルで接続されたコンピュータと接続 する場合)
Network Connection for UPS(LAN I/F Card).	UPS(LAN/IFカード)とネットワーク経由で接続します。

「Direct Connection with Serial Cable.」を選択した場合

→ (D) へ進んでください。

「Network Connection for BPSPOC-II Server.」 または、

「Network Connection for UPS(LAN I/F Card).」を選択した場合

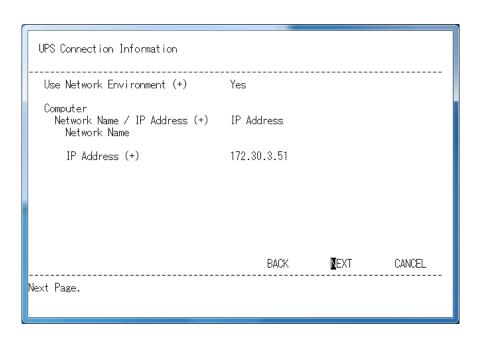
→ (F) へ進んでください。

<情報>

本画面は、初期セットアップ時のみ表示されます。

(D) UPSの使用環境を選択します。ネットワーク環境を使用してUPSサーバとして使用するか、 または ネットワーク環境を使用せずにスタンドアロンで使用するかを設定します。

使用環境を設定後、「NEXT」にカーソルを移動してスペースキーで決定します。 (カーソルの移動は、矢印キーで行います。項目名の後ろに(+)がある項目は、スペースキーで設定内容を選択できます。)



項目	説明
Use Network Environment	ネットワーク環境を使用 する(Yes)/しない(No) を選択します。
Network Name / IP Address	ネットワークの設定方法を選択します。
Network Name	「Network Name / IP Address」の設定で「Network Name」を選択時、 ネットワーク名を入力します。
IP Address	「Network Name / IP Address」の設定で「IP Address」を選択時、お使いのコンピュータに複数のIPアドレスがある場合、UPS管理用に使用するIPアドレスを選択します。

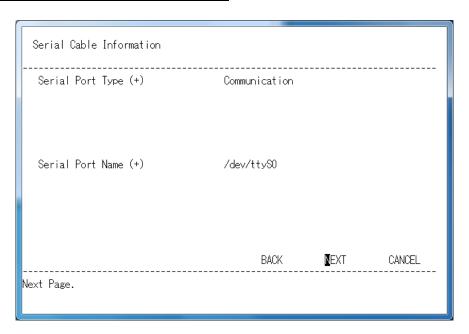
### IPアドレス (Computer) について

お使いのコンピュータが IPv6 環境で使用可能な場合 (BPSPOC-II の IPv6 対応 OS である場合) は、コンピュータのネットワーク設定において有効になっている IPv4/IPv6 のアドレスが表示されます。

クライアント接続するコンピュータと接続可能な IP アドレスを選択してください。

(E) シリアルケーブルの接続方法を選択します。ご使用の環境に合わせて、接続方法の設定を行います。設定内容を確認後「NEXT」にカーソルを移動し、スペースキーで決定します。 (カーソルの移動は、矢印キーで行います。項目名の後ろに(+)がある項目は、スペースキーで設定内容を選択できます。)

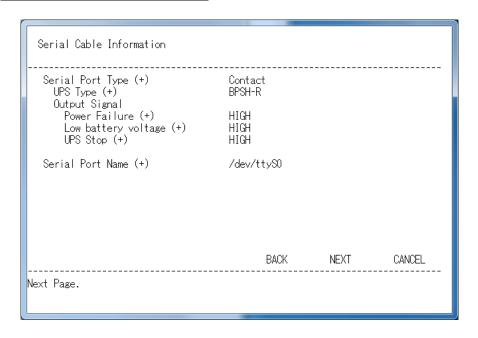
### UPSとシリアル接続する場合の設定画面



項目	説 明
Serial Port Type	「シリアル接続(Communication)」を選択します。接点接続に変更する場合は、「接点接続(Contact)」を選択します。
Serial Port Name	ご使用のコンピュータをUPSと接続する際に使用するシリアルポート(デバイス名)を選択します。

シリアルケーブルの接続方法設定後は、(G) へ進んでください。

### UPSと接点接続する場合の設定画面

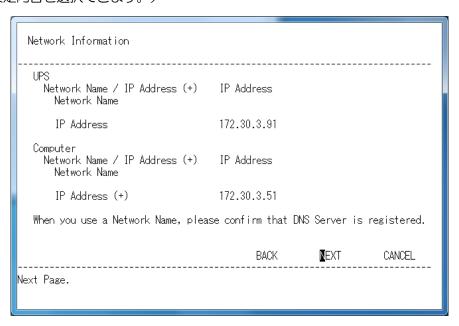


項 目	説 明
Serial Port Type	「接点接続(Contact)」を選択します。シリアル接続に変更する場合は、「シリアル接続(Communication)」を選択します。
UPS Type	UPSの機種を選択します。(※1)
Out Put Signal	
Power Failure	電源障害信号の <b>有効/無効</b> および電源障害信号極性が表示されます。 LOW/HIGHを選択できます。
Low battery voltage	バッテリ電圧低下信号の <b>有効/無効</b> およびバッテリ電圧低下信号極性 が表示されます。LOW/HIGHを選択できます。
UPS Stop	無停電電源シャットダウンの有効/無効およびリモート無停電電源シャットダウン極性が表示されます。LOW/HIGHを選択できます。
Serial Port Name	ご使用のコンピュータのシリアルポート(デバイス名)を選択します。

(※1)「UPS Type」で該当するUPS機種が存在しない場合は"OTHER"を選択し、「Out Put Signal」でUPSの極性設定をします。(「Out Put Signal」の各項目は、「UPS Type」に"OTHER"が選択されたときのみ変更可能となります。)各極性の設定値についての詳細は、ご使用のUPS付属の説明書を参照してください。

<u>シリアルケーブルの接続方法設定後は、(G) へ進んでください。</u>

(F) UPSのネットワーク名またはIPアドレス、およびコンピュータのネットワーク名または I P アドレスを入力します。入力されているネットワーク名、IPアドレスが正しく設定されていることを確認し、「NEXT」にカーソルを移動してスペースキーで決定してください。 (カーソルの移動は、矢印キーで行います。項目名の後ろに(+)がある項目は、スペースキーで設定内容を選択できます。)



項目 説明

**UPS** 

Network Name / IP Address. ネットワークの設定方法を選択します。

Network Name ネットワーク名を入力します。

IP Address<sup>(※1)</sup> UPSとシリアルケーブルで接続しているコンピュータ、

またはLANインタフェースカードのIPアドレスを入力し

ます。

Computer

**Network Name / IP Address.** ネットワークの設定方法を選択します。

Network Name ネットワーク名を入力します。

IP Address コンピュータに複数のIPアドレスがある場合、UPSと通

信可能なネットワークアドレスを選択します。

### <注意>

ネットワーク名を指定した場合、指定したネットワーク名を DNS サーバなどにより IPアドレスに変換できる必要があります。

## <情報>

本画面は、初期セットアップ時のみ表示されます。

## (※1) LAN インタフェースカード使用時の IP アドレス (IPv6) について

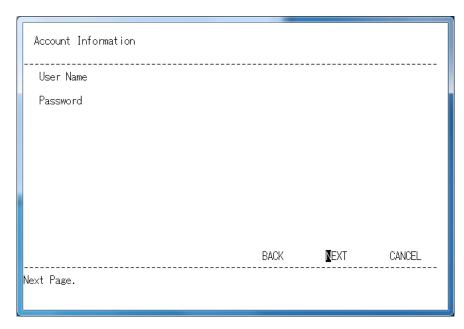
IPv6 対応のLAN インタフェースカードを使用している場合、LAN インタフェースカードに設定されているリンクローカルアドレスは、そのLAN インタフェースカード固有のアドレスになります。将来、LAN インタフェースカードの交換を行うとリンクローカルアドレスも新しいアドレスが割り当てられます。BPSPOC-II を接続する場合は、固定のIP アドレスを使用するようにしてください。

## Pアドレス (Computer) について

お使いのコンピュータが IPv6 環境で使用可能な場合 (BPSPOC-II の IPv6 対応 OS である場合) は、コンピュータのネットワーク設定において有効になっている IPv4/IPv6 のアドレスが表示されます。

UPS の IP Address と接続可能な IP アドレスを選択してください。

(G) UPS管理用のユーザ名とパスワードの入力を行い、「NEXT」にカーソルを移動してスペースキーで決定してください。(カーソルに移動は、矢印キーで行います。)



項目	説明
User Name	ユーザネームを入力します。 (大文字/小文字の区別は行いません。)
Password	パスワードを入力します。 (大文字/小文字の区別を行います。)

UPS管理者アカウントを入力します。

デフォルト設定値は、 User Name : **upsadmin** Password: **UpsAdmin** (※1)

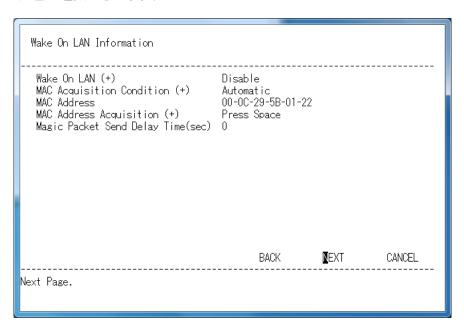
を入力してください。

(※1) パスワードは、大文字/小文字の区別を行います。

<u>UPSとシリアルケーブルで接続する設定の場合は、次に(I)</u> の画面へ移ります。

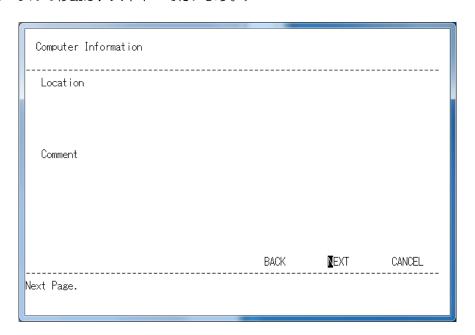
(H) WakeOnLANの設定を行います。WakeOnLAN実行条件の選択、MACアドレスの入力を行い、「NEXT」にカーソルを移動してスペースキーで決定してください。

(カーソルの移動は、矢印キーで行います。項目名の後ろに(+)がある項目は、スペースキーで設定内容を選択できます。)



項目	説明
Wake On LAN	Wake On LANを使用 する(Enable)/しない(Disable) を指定します。
MAC Address Acquisition Condition	「Wake On LAN」で"Enable"を指定した場合、MACアドレスの取得方法を指定します。 (自動で取得する(Automatic)/手動で設定する(Fixation))
MAC Address	「MAC Address Acquisition Condition」で"Fixation"を選択した場合、MACアドレスを指定します。
MAC Address Acquisition	「MAC Address Acquisition Condition」で"Fixation"を選択した場合、「MAC Address」に自コンピュータのMACアドレスを表示させます。
Magic Packet Send Delay Time (※1)	Magic Packetを送信する際の遅延時間(秒)を指定します。

(※1)本設定値は、LANインタフェースカード使用時に設定が可能です。ただし、本設定に 未対応のLANインタフェースカードでは、設定は行えません。 (1) コンピュータの設置場所、説明の入力を行います。必要に応じて入力を行い、「NEXT」にカーソルを移動してスペースキーで決定してください。 (カーソルの移動は、矢印キーで行います。)

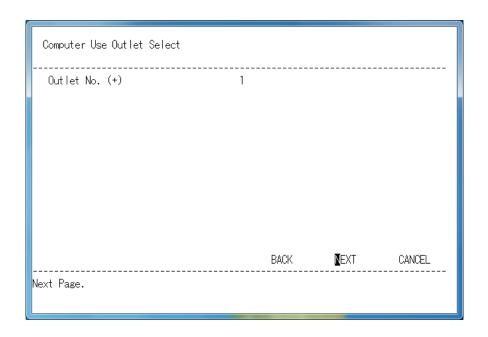


項目		説明
Location	設置場所を入力します。	(空白可)
Comment	コメントを入力します。	(空白可)

(注意) 日本語入力は不可です。

(J) コンピュータに電源供給を行うUPSのコンセント番号の設定を行います。設定内容を確認後、「NEXT」にカーソルを移動してスペースキーで決定してください。 なお、本設定は、使用しているUPSが複数系統出力に対応している場合に設定が可能です。 (複数系統出力に対応している場合に ないUPSを使用している場合は、本設定画面が表示されません)

(カーソルの移動は、矢印キーで行います。項目名の後ろに(+)がある項目は、スペースキーで設定内容を選択できます。)



項目	説明
Outlet No.	コンピュータへの給電を行うコンセント番号を選択します。 "1" コンセント1
	"2" コンセント2 "O(Continuous Output)" 常時出力

復電時の自動起動、スケジュール制御などを行う場合は、「常時出力」コンセントに は、コンピュータを接続しないようにしてください。 (K) シャットダウントリガの設定を行います。設定内容を確認後、「NEXT」にカーソルを移動してスペースキーで決定してください。

(カーソルの移動は、矢印キーで行います。項目名の後ろに(+)がある項目は、スペースキーで設定内容を選択できます。)

```
Shutdown Condition
   Power Failure
     Enable Outlet. (+)
                                         1,2,0(Continuous Output)
     Confirmation Time(sec)
   Low battery voltage
     Shutdown execution. (+)
                                         Enable
     Condition of until low batt. (+) Disable
Specified value.(min)

0
     Communication trouble. (+)
                                         Disable
       Confirmation time(sec)
     Major breakdown occurs. (+)
                                         Disable
       Confirmation time(sec)
     Overload occurs. (+)
                                         Disable
       Confirmation time(sec)
                                                 BACK
                                                             EXT
                                                                          CANCEL
Next Page.
```

項	説	明

Power Failure

Enable Outlet 停電確認時間経過後、シャットダウンを行うコンセント番号を

指定します。

**Confirmation Time(sec)** 停電確認時間を秒で指定します。

Low battery voltage

Shutdown execution. バッテリ電圧低下発生時にシャットダウンします。

Condition of untill Low batt. バッテリの推定保持時間が指定値より短くなったらバッテリ電圧

低下とする(Enable)/しない(Disable)を指定します。

Specified value.(min) バッテリの推定保持時間の指定値を分で指定します。

Other

Communication trouble. UPSとシリアル通信異常が発生した場合、

シャットダウン **する(Enable)/しない(Disable)** を指定します。

Major breakdown occurs. UPSと重故障が発生した場合、

シャットダウン する(Enable)/しない(Disable)を指定します。

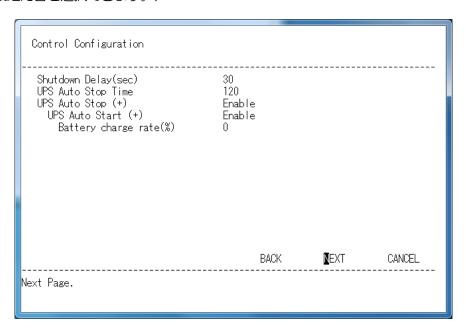
Overload occurs. UPSと過負荷が発生した場合、

シャットダウン する(Enable)/しない(Disable) を指定します。

Confirmation time(sec) 各シャットダウントリガの確認時間を秒で指定します。

(L) UPS停止制御の設定を行います。設定内容を確認後、「NEXT」にカーソルを移動してスペースキーで決定してください。

(カーソルの移動は、矢印キーで行います。項目名の後ろに(+)がある項目は、スペースキーで設定内容を選択できます。)



項 目	説明
Shutdown Delay(sec)	シャットダウン遅延時間を秒で指定します。
UPS Auto Stop Time	UPSの自動停止時間を秒で指定します。
UPS Auto Stop	停電時にUPSを自動停止 <b>する(Enable)/しない(Disable)</b> を指定します。
UPS Auto Start	復電時にUPSを自動起動 <b>する(Enable)/しない(Disable)</b> を指定します。
Battery charge rate(%)	バッテリ充電率が指定値以上になったらUPS出力をオンするように設定します。(UPSが未対応の場合は設定不可) 指定値を0%に設定した場合、停電回復時には即時にUPS出力をオンします。

# <情報>

UPS停止制御時の初期値は以下の通りです。

(停電が発生してから約3分30秒後にUPSが停止します。)

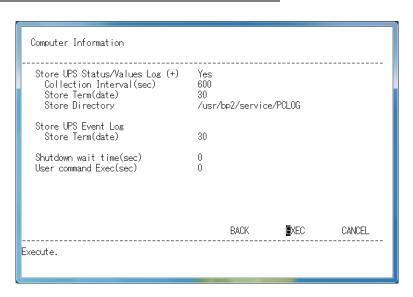
● 停電確認時間 :60秒● シャットダウン遅延時間 :30秒● UPS停止時間 :120秒

(M) 自コンピュータへのUPSの状態・計測値履歴の保存情報の設定、および、シャットダウン実行時の動作時間設定を行います。設定内容を確認後、「EXEC」にカーソルを移動してスペースキーで決定してください。

以上で設定は完了です。

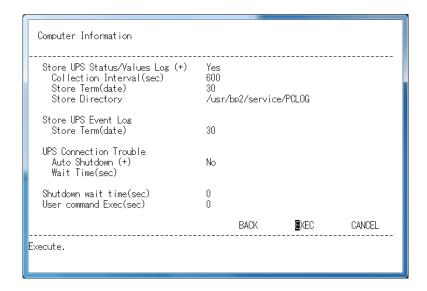
(カーソルの移動は、矢印キーで行います。項目名の後ろに(+)がある項目は、スペースキーで設定内容を選択できます。)

## UPSとシリアルケーブル接続している構成の場合



項目	説明
Store UPS Status/Values Log	UPSの状態・計測値の履歴を記録 <b>する(Yes)/しない(No)</b> の 指定をします。
Collection Interval (sec)	UPS監視間隔を秒で指定します。
Store Term(date)	記録期間を日数で指定します。
Store Directory	ログファイルの保存先ディレクトリが表示されます。 (変更は不可)
Store UPS Event Log	
Store Term(date)	イベント情報の記録期間を日数で指定します。
Shutdown wait time	シャットダウン遅延時間経過後、「シャットダウン実行」イベントのスクリプトを実行するまでの待機時間を秒で指定します。
User command Exec	「シャットダウン実行」のイベントスクリプト実行に必要な時間を秒で指定します。 (「Shutdown wait time」と「User command Exec」の経過後、シャットダウンが開始されます。この時間を使い、コンピュータ毎にシャットダウン開始まで遅延を設定できます)

# LANインタフェースカードを使用している構成の場合



項目	説明
Store UPS Status/Values Log	UPSの状態・計測値の履歴を記録 <b>する(Yes)/しない(No)</b> の 指定をします。
Collection Interval (sec)	UPS監視間隔を秒で指定します。
Store Term(date)	記録期間を日数で指定します。
Store Directory	ログファイルの保存先ディレクトリが表示されます。 (変更は不可)
Store UPS Event Log	
Store Term(date)	イベント情報の記録期間を日数で指定します。
UPS Connection Trouble	
Auto Shutdown	UPSとの通信が異常になった場合に、自動的にシャットダウン <b>する(Yes)/しない(No)</b> を指定します。
Wait Time(sec)	「Auto Shutdown」で"Yes"を選択した場合に、シャットダウンの警告メッセージが表示されてからシャットダウンするまでの時間を、秒で指定します。
Shutdown wait time	シャットダウン遅延時間経過後、「シャットダウン実行」イベントのスクリプトを実行するまでの待機時間を秒で指定します。
User command Exec	「シャットダウン実行」のイベントスクリプト実行に必要な時間を秒で指定します。 (「Shutdown wait time」と「User command Exec」の経過後、シャットダウンが開始されます。この時間を使い、コンピュータ毎にシャットダウン開始まで遅延を設定できます)

# 5. BPSPOC-IIの動作について

BPSPOC-IIの動作等に関しては、「ユーザガイド」を参照してください。

ユーザガイドは、PDFファイルでの提供となります。

ユーザガイドは、**BPSPOC-II**インストール先の「Documents」フォルダ、およびインストール CDに添付されています。

またWindowsでは、スタートメニューからも参照できます。

Acrobat Reader7.0 以降を使用して参照してください。

# 6. アンインストール

BPSPOC-IIをアンインストールするには、以下の作業を行ってください。

以降の操作は、管理者権限(Administrators、root)を持ったユーザで実施してください。

サーバ/クライアント構成で使用している、または LAN インタフェースカード構成で使用している場合、自装置の登録情報を削除する前に、アンインストールを行うと、自装置の情報がサーバ装置側、または LAN インタフェースカード側に残ったままになります。アンインストールを行う前に、自装置の登録情報を削除してから、アンインストールを行ってください。

# 6.1 Windowsの場合

- ●BPSPOC-IIのアンインストール
- ①タスクバーの[スタート]メニューから、[コントロール パネル]を選択します。
- ②コントロールパネル内の以下に示す機能を選択します。
  - [プログラムの追加と削除] (Windows XP、Windows Server 2003の場合)
  - [プログラムと機能] (Windows Vista、Windows Server 2008以降の場合)
- ③アプリケーションの一覧から「BPSPOC-II」を選択します。
- ④画面から「変更」を選択するか、マウス右クリックのメニューから「変更」を選択します。
- ⑤インストーラが起動します。「プログラムの保守」画面にて「削除(R)」を選択して実行すると、 削除を行います。

- ●Windows Server 2008、Windows Server 2012、または Windows Server 2016 を Server Core で使用している場合のアンインストール
- ①コマンドラインから、以下のアンインストールコマンドを実行します。

# 実行コマンド例

C:¥ > wmic product where name="BPSPOC-II" call uninstall

# 6.2 Solaris10以降の場合

Solaris のバージョンにより、BPSPOC-II サービスプログラムの停止方法が異なります。使用バージョンを確認のうえで実施してください。

## ●BPSPOC-IIサービスプログラムを停止します

UPS管理システム動作中の場合、次のコマンドのどちらかを実行しサービスプログラム停止を行います。

(恒久的にサービスを停止する場合)

# svcadm disable sg4lite <Return>

(一時的にサービスを停止する場合)

# svcadm disable -t sg4lite <Return>

## ●BPSPOC-IIプログラムのアンインストール

サービスプログラムの停止処理を行った後、pkgrmコマンドを使用しアンインストールします。

# pkgrm SANYupsd < Return >

次のパッケージは現在インストールされています:

SANYupsd BPSPOC-II (sparc) 3.0.0

このパッケージを削除しますか [y,n,?,q] y このパッケージには、パッケージの削除の処理中にスーパーユーザーのアクセス権で実行されるスクリプトが含まれています。

このパッケージの削除処理を継続しますか [y,n,?,q] y

<SANYupsd>の削除に成功しました。

# 6.3 Solaris8、9の場合

Solaris のバージョンにより、BPSPOC-II サービスプログラムの停止方法が異なります。使用バージョンを確認のうえで実施してください。

## ●BPSPOC-IIサービスプログラムを停止します

UPS管理システム動作中の場合、次のコマンドを実行しサービスプログラム停止を行います。

# cd /etc/init.d <Return>
# ./sg4lite stop <Return>

# ●BPSPOC-IIプログラムのアンインストール

サービスプログラムの停止処理を行った後、pkgrmコマンドを使用しアンインストールします。

# pkgrm SANYupsd < Return>

次のパッケージは現在インストールされています:

SANYupsd BPSPOC-II (sparc) 3.0.0

このパッケージを削除しますか [y,n,?,q] y このパッケージには、パッケージの削除の処理中にスーパーユーザーのアクセス権で実行されるスクリプトが含まれています。

このパッケージの削除処理を継続しますか [y,n,?,q] y

<SANYupsd>の削除に成功しました。

# 6.4 Linuxの場合

●BPSPOC-IIサービスプログラムを停止します UPS管理システムが動作中の場合、

cd /etc/init.d
./sg4lite stop

を実行します。

●BPSPOC-IIプログラムのアンインストール

cd <インストール先ディレクトリ>
./sg4uninstall

を実行します。

「Uninstall continue(y/n)?」と表示されたら「y」を入力し、RETURNキーを押下します。「OK(y/n)?」 と再確認の表示がされたら「y」を入力し、RETURNキーを押下します。「Uninstall Completed.」 と表示されたらアンインストール完了です。

# 付録A Windows版をお使いになる際の注意事項

コンピュータの自動起動機能の制約について

\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*

1. 以下のOSをお使いの場合、UPSからの電源供給によりコンピュータを自動起動するには、以下のOS 条件が必要になります。

# Windows XP の場合:

ServicePack2以上がインストールされている必要があります。

#### Windows Server 2003 の場合:

ServicePack1 以上がインストールされている必要があります。

#### Windows 8 の場合:

Windows 8 Pro / Enterprise がインストールされている必要があります。

### Windows 10 の場合:

Windows 10 Pro / Enterprise / Education がインストールされている必要があります。

#### 上記以外の場合:

ハードウェア側(BIOS)の設定で電源投入時のコンピュータの起動を設定する必要があります。 例えば、

- 「電源供給時にコンピュータをすぐさま起動する機能」を有効にする。
- WakeUp機能(リング信号、WakeOnLAN等)を有効にする。

などです。

ただし、BIOS設定内容は、コンピュータの機種により異なります。

詳しくは、コンピュータの取扱説明書、またはコンピュータの購入先へお問い合わせください。

## <注意>

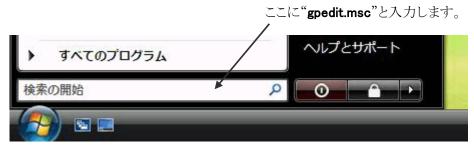
BIOS設定を変更する場合は、コンピュータの取扱説明書をお読みになり、お客様の責任において実施してください。

2. Windows XP以降のOSにおいては、UPS管理ソフトでシャットダウンが行われた後に("コンピュータ の電源を切ることができます。"のメッセージが表示されずに)自動的に電源オフする場合は、UPSから 電源供給を行ってもコンピュータが自動起動しない場合があります。

これを回避するため、以下の手順に従い、UPS管理ソフトからのシャットダウン時に、自動的に電源 オフしないように設定を変更してください。

### <手順>Windows XP~Windows Server 2008R2までの場合

[1] [スタート] メニューから[ファイル名を指定して実行]をクリックし、"gpedit.msc"を実行します。 または、Windows Vista 以降のOSにおいては、[スタート] メニューの検索欄を使用し、"gpedit.msc" を実行します。



(上記画面はWindows Vistaのものです。)

- [2][ローカルコンピュータポリシー] [コンピュータの構成] [管理用テンプレート] [システム] を開きます。
- [3] [Windows システムのシャットダウンのときに電源を切らない]をダブルクリックします。
- [4][設定]タブの[有効]を選択し、[OK]をクリックします。

Windows sever 2008 Server Core の場合、リモートマシン (Windows Vista 以降のWindows OS) からMMC を使用して、[グループポリシーオブジェクトエディタ]から [Windowsシステムのシャットダウンのときに電源を切らない]の[有効]設定を行ってください。設定後、グループポリシーの設定変更を有効にするため、OSを再起動してください。

## <手順>Windows 8 Pro / Enterprise、Windows Server 2012の場合

- [1][スタート]画面の検索欄に「Edit Group Policy」を入力します。[設定]をクリックし、「グループポリシーの編集」を選択します。(同様な方法としては、「コマンドプロンプト」を開き、"gpedit"を実行します。)
- [2] [ローカル グループ ポリシー エディター]画面が開きます。[ローカルコンピュータポリシー] [コンピュータの構成] [管理用テンプレート] [システム]を開きます。
- [3][Windows システムのシャットダウンのときに電源を切らない]をダブルクリックします。
- [4][**設定]**タブの[**有効]**を選択し、[OK]をクリックします。

Windows 8 Pro / Enterprise 以外の Windows 8 では、[ローカル グループ ポリシー エディター]は起動できません。そのため、BIOS 設定により電源給電時にコンピュータを起動するように設定を行う、または Wake Up 機能を利用して、コンピュータを自動起動するようにします。

## <手順>Windows 10 Pro / Enterprise / Education、Windows Server 2016 の場合

- [1] タスクバーの検索ボックスに「グループ」を入力します。結果表示されている「グループポリシーの編集」を選択します。
- [2] [ローカル グループ ポリシー エディター]画面が開きます。[ローカルコンピュータポリシー]ー[コン

**ピュータの構成**] - [管理用テンプレート] - [システム]を開きます。

- [3] [Windows システムのシャットダウンのときに電源を切らない] をダブルクリックします。
- [4][**設定**]タブの[**有効**]を選択し、[OK]をクリックします。

Windows 10 Home では、 [ローカル グループ ポリシー エディター]は起動できません。そのため、 BIOS 設定により電源給電時にコンピュータを起動するように設定を行う、または Wake Up 機能を利用して、コンピュータを自動起動するようにします。

\*

Windowsファイアウォールのご使用にあたって

\*

「Windows ファイアウォール」が有効の場合、UPS 管理ソフトはネットワーク通信を行うことができなくなります。(ファイアウォールが「無効」に設定されている場合は、問題ありません。)

UPS 管理ソフトを使用してネットワーク通信を行う場合 (\*\*) は、ファイアウォールを通過できる「**例外」**の設定が必要となります。

(※) UPS 管理ソフトのサーバークライアント構成、または LAN インタフェースカードを組み込んだ UPS に接続する場合

## <手順>Windows XP, Windows Server 2003 の場合

- ①[スタート]メニューから[コントロールパネル] [Windowsファイアウォール]を選択します。
- ②Windows ファイアウォール画面の[例外]タブを開き、UPS管理ソフトのインストールフォルダにある「SGUPSSvc.exe」を例外として追加登録します。 (デフォルトインストールフォルダ C:\(\forage{C:YProgram Files\(\text{PPSPOC2\(\text{PPSPOC-II}\)}\))
- ③Windows ファイアウォール画面の[詳細設定] タブを開き、ICMPの設定ボタンを選択し、「エコー要求の着信を許可する」をチェックして、ICMPの受信を許可します。
- ④UPS管理ソフトのGUIツールを起動すると、「Windowsセキュリティの重要な警告」のメッセージ(名前: javaw)が表示される場合があります。この場合、「ブロックを解除する」を選択します。これにより、GUIツール(javaw)が、Windowsファイアウォールの例外に追加されます。

「Windowsセキュリティの重要な警告」のメッセージにおいて、「ブロックする」または「後で確認する」を選択した場合は、上記①~②の手順により、UPS管理ソフトのインストールフォルダ配下のJRE¥binフォルダにある「javaw.exe」を例外として追加登録してください。

(デフォルトインストールフォルダ C:\Program Files\BPSPOC2\BPSPOC-II\JRE\bin)

### <手順>Windows Vista , Windows Server 2008以降の場合

①Windows Vista、Windows 7の場合、 [スタート]メニューから[コントロールパネル]ー[管理ツール]ー[セキュリティが強化されたWindowsファイアウォール]を選択します。

Windows Server 2008の場合、[スタート] メニューから [管理ツール] ー [セキュリティが強化されたWindows ファイアウォール] を選択します。

Windows 8、Windows Server 2012の場合、[設定]から[コントロールパネル]ー[管理ツール]ー[セキュリティが強化されたWindowsファイアウォール]を選択します。

Windows 10、Windows Server 2016の場合、タスクバーの検索ボックスに「ファイアウォール」を入力します。結果表示されている「セキュリティが強化されたWindowsファイアウォール」を選択します。

②[**受信の規則**]を選択して、右クリックメニューの[**新規の規則**]を選択します。規則の種類「プログラム」を選択し、[次へ]をクリックします。[このプログラムのパス]にUPS管理ソフトのインストールフォルダにある「SGUPSSvc.exe」を参照入力し、[次へ]をクリックします。

(デフォルトインストールフォルダ C:\Program Files\BPSPOC2\BPSPOC-II )

「接続を許可する」を選択し、[次へ]をクリックし、適用するネットワークを選択して、[次へ]をクリックします。

規則の名前(例: SGUPSSvc-Rule)を入力して、[完了]をクリックします。

③「受信の規則」の中の「ファイルとプリンタの共有(エコ一要求 - ICMPv4 受信)」の規則をダブルクリックして、全般タブにある[有効]のチェックボックスをオンにして、ICMPの受信を許可します。 (IPv6アドレスを使用する場合は、「ファイルとプリンタの共有(エコ一要求 - ICMPv6 受信)」の規則においても同様に有効にします)

Windows10を使用している場合、「受信の規則」の中の「仮想マシンの監視(エコー要求 - ICMPv4 受信)」の規則も同様に有効にします。(IPv6アドレスを使用する場合は、「仮想マシンの監視(エコー要求 - ICMPv6 受信)」の規則も同様に有効にします。)

④UPS管理ソフトのGUIツールを起動すると、「Windowsセキュリティの重要な警告」のメッセージ(名前: Java(TM)2 Platform Standard Edition binary)が表示される場合があります。この場合、「ブロックを解除する」、または「アクセスを許可する」を選択します。これにより、GUIツール(javaw)が、Windowsファイアウォールの例外に追加されます。

「Windowsセキュリティの重要な警告」画面で例外設定を行わない場合でも、上記①~②の手順を参照して、GUIツール(javaw)を Windowsファイアウォールの例外に追加します。

UPS管理ソフトのインストールフォルダ配下のJRE¥binフォルダにある「javaw.exe」を受信の規則に登録します。

(デフォルトインストールフォルダ C:\Program Files\BPSPOC2\BPSPOC-\II\JRE\bin)

Windows Sever 2008、およびWindows Server 2012を Server Core環境で使用している場合、リモートマシン(Windows Vista 以降のWindows OS)からMMCを使用して、[セキュリティが強化されたWindowsファイアウォール]から「SGUPSSvc.exe」および「javaw.exe」を受信の規制に新規設定登録、および ICMPの受信許可の設定を行ってください。

Windows Server 2003、Windows Server 2008でのご使用にあたって

\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*

### ターミナルサービスをご利用になる場合:

メッセージ送信機能により送信先が「ローカル」に指定されているメッセージは、コンソールおよびリモートクライアント全てに表示されます。

ただし、システム管理者の確認が必要となるメッセージについては、ユーザを限定して表示を行います。メッセージの表示は、原則としてコンソールに対して行いますが、ログオンユーザがリモートクライアントのみの場合は、最初に検出されたアクティブなログオンユーザとなります。

対象となるメッセージは以下の通りです。

- •接続UPSが設定されていない場合の警告メッセージ
- ・UPSとの通信異常が発生した場合のシャットダウン確認メッセージ (UPSとの通信異常が発生した場合に、シャットダウンを行う設定の場合のみ)

\*

Windows 8、およびWindows Server 2012では、従来のデスクトップ環境に加えて、アプリ環境(モダンUI環境)があります。

BPSPOC-IIは、アプリ環境には対応していませんので、アプリ環境を使用している場合は、ポップアップメッセージを表示することはできません。

ただし、デスクトップ環境を使用している場合は、ポップアップメッセージは表示されます。

アプリ環境で使用している場合も、BPSPOC-IIからのシャットダウンは問題なく行われます。

Windows 10 を「タブレットモード」で使用している場合も、ポップアップメッセージが表示されない場合があります。

「タブレットモード」使用時も、BPSPOC-IIからのシャットダウンは問題なく行われます。

\*

Windows Server 2012からLANインタフェースカードにネットワーク接続する場合の注意

\*

この注意点は、Windows Server 2012 と IPv6 未対応の LAN インタフェースカード(従来製品)を組み合わせて使用している場合に、該当する可能性があります。以下の内容を確認してからお使いください。IPv6 対応の LAN インタフェースカードを使用している場合、または LAN インタフェースカードを使用しない場合は、この注意点には該当しません。

(この注意書きは、Windows Server 2016 をお使いの場合も同様です。)

Windows Server 2012の場合、ECN機能(※1)のデフォルト値は「有効」に設定されています。

(※1) ECN (Explicit Congestion Notification) 機能とは、TCP 通信の輻輳抑制機能です。

お使いのWindows OSのECN機能が「有効」に設定されている場合、GUIツールを使用してLANインタフェースカードにアクセスすると、ネットワーク通信が非常に遅くなり、GUIツールの画面表示が遅くなります。

GUIツールからLANインタフェースカードにアクセスを行う時は、「① 設定状態の確認」の手順でECN機能の設定状態を確認し、「有効」に設定されている場合は、「② 無効に設定する場合」の手順で「無効」に設定してください。

LANインタフェースカードへのアクセスが不要な場合は、「③ 有効に設定する場合」の手順で設定を「有効」に戻してください。 (\*2)

(※2) ECN 機能が「無効」になっている別コンピュータ上の BPSPOC-II (あるいは BPSPOC-II COMBINATION) を使用して、ECN 機能が「有効」になっているコンピュータの装置登録/設定変更を実施することも可能です。

### ① 設定状態の確認

- ・管理者権限でログインし、コマンドプロンプトを開き、下記のコマンドを実行します。
  - netsh interface tcp show global
- ・表示された TCP グローバルパラメータの ECN 機能の設定を確認します。

ECN 機能: enabled (有効) / disabled (無効)

Enabled (有効) の場合、②の手順で設定を変更します。

Disabled (無効) の場合、変更の必要はありません。

# ② 「無効」に設定する場合 (※3)

管理者権限でログインした状態で以下のいずれかの方法から変更します。

方法1) BPSPOC-II インストールフォルダ内の「ECN\_DISABLE.BAT」を実行します。

方法2) コマンドプロンプトを開き、以下のコマンドを実行します。

netsh interface top set global ecncapability=disabled

### ③ 「有効」に設定する場合 (※3)

管理者権限でログインした状態で以下のいずれかの方法から変更します。

方法1) BPSPOC-II インストールフォルダ内の「ECN\_ENABLE.BAT」を実行します。

方法2) コマンドプロンプトを開き、以下のコマンドを実行します。

netsh interface top set global ecncapability=enabled

(※3) ECN 機能の設定値変更による OS 再起動は必要ありません。

ECN 機能「有効」で使用した場合でも、電源障害時のシャットダウン動作については、問題なく動作します。

## 

### ターミナルサービスを利用される場合の制約について

Windows XP以降のターミナルサービス(リモートデスクトップ接続)をご利用になる際、以下の条件で動作した場合、シャットダウンが行われない場合があります。

スケジュール機能等でコンピュータの自動シャットダウンを行う際に、(UPS管理ソフトの設定値)シャットダウンの遅延を**「無限に繰り返す」**に設定されている場合(全てのユーザがログオフするまで待つ設定がされている)、リモートクライアント側でログオフせずにセッションを終了している(切断状態の)ユーザがいると、シャットダウンが行われません。

これは、切断状態のユーザはターミナルサーバ上では、ログオン状態であるとみなされているためです。ただし、停電時のシャットダウン動作時は、上記の条件に関係なくシャットダウンは行われます。

# 付録B Linux版をお使いになる際の注意事項

インストールの前に

### 

Linuxでは、使用目的に応じたシステム構築を容易にするために、いくつかのインストール形態が用意されています。そのため、インストール形態によっては、本システムが必要とするパッケージがインストールされない場合があります。

以下に、不足する可能性のあるパッケージを示します。インストールの有無を確認し、インストールされていない場合は、OSインストールCDからインストールしてください。

## <インストールの確認>

例)RedHat Enterprise Linux 5(Itanium)の場合 # rpm -q libXp

インストールされている場合は、「libXp-1.0.0-8」と表示されます。

Linux OS	パッケージ名	ファイル名
Red Hat Enterprise Linux 5	libXp <sup>(※1)</sup>	libXp-1.0.0-8.ia64.rpm
(Itanium)		
SUSE Linux Enterprise	setserial	setserial-2.17-577.i586.rpm
<b>Server 9</b> (x86)		
SUSE Linux Enterprise	setserial	setserial-2.17-577.1.x86_64.rpm
Server 9 (AMD64, EM64T)		

<sup>(※1)</sup> GUI版のツールを使用する場合には、インストール必要となります。

### \*

### ターミナルウィンドウへのメッセージ表示について

### 

以下のOSをお使いの場合、イベント発生時に表示されるべきメッセージが表示されない場合があります。これは、ターミナルソフト「Konsol」(デフォルトインストールバージョン)をご使用の場合に発生する問題です。日本語の表示が可能な他のターミナルソフトを使用するか、「Konsol」をアップデートする (\*1) 必要があります。

#### SUSE Linux Enterprise Server 9

(\*1): ウィンドウマネージャ「KDE」をバージョン3.3にアップデートすることにより「Konsol」もアップデートされます。

#### \*

Red Hat Enterprise Linux 4のご使用にあたって

\***\*** 

GUIツールの起動時に以下のようなメッセージが表示され、GUIツール上での日本語入力ができないことがあります。

java.awt.AWTException: cannot open XIM

- at sun.awt.motif.X11InputMethod.\(\)(X11InputMethod.java:144)
- at sun.awt.motif.X11InputMethodDescriptor.createInputMethod(X11InputMethodDescriptor.java:73)
- at sun.awt.im.InputContext.getInputMethodInstance(InputContext.java:686)
- at sun.awt.im.InputContext.getInputMethod(InputContext.java:636)

これは、X-windowのインプットメソッドについてのエラーで、日本語インプットメッソッドが「IIIMF」となっている場合に発生します。

(デフォルトのインプットメッソッドは、「IIIMF」です。)

インプットメソッドを以下の手順で変更する必要があります。

<手順> ~ ウィンドウマネージャがGNOMEの場合 ~

- 1.「アプリケーション」メニューより「システム設定」ー「入力メソッド選択」を選択する。
- 2. 「有効な入力メソッド」にて、

高度な設定 : Japanese - 日本語

入力メソッド: kinput2-canna または kinput2-wnn(iiimf以外)

を選択する。

3. X-windowを再起動する。

Red Hat Enterprise Linux 5のご使用にあたって

## 

Red Hat Enterprise Linux 5の日本語環境でGUIツールを使用する場合、テキストボックスへのキー入力が行えなくなる事象が発生する場合があります。

これは、特定バージョンのJavaと日本語入力メソッドのSCIM(Smart Common Input Method)とを組み合わせて使用した時に発生する場合があります。

このような事象が発生した場合、テキストボックスへのキー入力を行うようにするには、一時的に日本語入力メソッドのSCIMを無効にしていただく、または別の日本語入力メソッドを使用するよう変更していただくと、事象を回避することができます。

以下に入力メソッドの設定を変更する方法について説明します。

### <手順>

- 1.「システム」メニューより「設定」ー「他の個人設定」ー「入力メソッド」を選択する。
- 2. 「入力メソッド設定ツール」にて、

入力メソッドを使わない カスタム入力メソッドを使う

のいずれかを選択し、「閉じる」ボタンを選択します。

3. 上記2. の設定は、次回のログインから有効になるため、一度ログインを仕直します。

BPSPOC-IIの設定等が終わりましたら、上記の手順から変更した、入力メソッドの設定を元に戻してください。

#### 関連情報:

MIRACLE LINUX Asianux Server 3 をお使いの場合においても、上記内容と同じ事象が発生する場合があります。

MIRACLE LINUX Asianux Server 3 の場合も、一時的に日本語入力メソッドを無効にします。 対応方法は、「SCIM 入力メソッドの設定」を使用し、IM エンジンから日本語を無効にします。

VMware ESX Server でのファイアウォールの設定について

**VMware ESX Server** はデフォルトで、ファイアウォール(セキュリティレベル:高  $^{*1}$ )が有効になっています。

\*1 ポート:902、80(http)、443、22(ssh)以外の着信、発信をすべて遮断

ファイアウォールが有効の場合、UPS 管理ソフトはネットワーク通信を行うことができなくなります。UPS 管理ソフトを使用してネットワーク通信を行う場合\*<sup>2</sup>は、esxcfg-firewall コマンドを使用して、UPS 管理ソフトで使用するポートを開く必要があります。

\*2 サーバークライアント構成の場合、またはLAN I/F 付き UPS に接続する場合

開く必要のあるポートを以下に示します。(esxcfg-firewall コマンド例も示します。)

< VMware ESX Server (ホスト) がUPSとクライアント接続の場合、または、LAN I/F付きUPSとネットワーク接続する場合>

説明	ポート番号	方向	コマンド例
セッション確立用	30000/tcp	out	esxcfg-firewallopenport 30000,tcp,out,TCP-30000
CUIツール接続用	30003/tcp	out	esxcfg-firewallopenport 30003,tcp,out,TCP-30003
通知受信用	31000/tcp	in	esxcfg-firewallopenport 31000,tcp,in,TCP-31000
ツール接続待ち	31001/tcp	in	esxcfg-firewallopenport 31001,tcp,in,TCP-31001

上記コマンドの設定を反映するために、以下の操作を行います。

①UPS サービスを停止する。

/etc/init.d/sg4lite stop

②VMware-hostd プロセスを再起動する。

service mgmt-vmware restart

③UPS サービスを起動する。

/etc/init.d/sg4lite start

Red Hat Enterprise Linux のファイアウォール(iptables)の設定について

ファイアウォール(iptables)が有効の場合、UPS管理ソフトはネットワーク通信を行うことができなくなります。(ファイアウォールが「無効」に設定されている場合は、問題ありません) UPS管理ソフトを使用してネットワーク通信を行う場合(※)は、ファイアウォールを無効に設定するか、UPS管理ソフトが使用するネットワークポートを開放する必要があります。

(※) UPS 管理ソフトのサーバ/クライアント構成、または LAN I/F 付き UPS に接続する場合

ファイアウォールを無効にする場合、以下のコマンドを実行します。

(IPv4の場合)

- # service iptables stop
- # chkconfig iptables off

(IPv6の場合)

- # service ip6tables stop
- # chkconfig ip6tables off

Firewallの設定ツールからも設定が行えます。

また、個別にポートを開放する場合は、/etc/sysconfig/iptables 、または /etc/sysconfig/ip6tables (IPv6用)にポート設定を記述します。

(例:通知受信用の31000/tcpポートを開く場合の設定例)

-A RH-Firewall-1-INPUT -m state -state NEW -m tcp -p tcp -dport 31000 -j ACCEPT

BPSPOC-IIが使用しているポートについては、ユーザガイド「付録E 使用プロトコルおよびサーバポート」に一覧が記載されていますので、こちらを参照してください。

(iptablesコマンドについては、マニュアルを参照してください)

#### 関連情報:

MIRACLE LINUX Asianux Server 3、MIRACLE LINUX V4.0 をお使いの場合も、上記のコマンドを使用して、ファイアウォールの設定を行うことができます。

Red Hat Enterprise Linux 7 のファイアウォール(firewalld)の設定について

Red Hat Enterprise Linux 7 からは、ファイアウォール機能として「firewalld」が使用可能になっています。

ファイアウォールが有効の場合、UPS 管理ソフトはネットワーク通信を行うことができなくなります。 (ファイアウォールが「無効」に設定されている場合は、問題ありません)

UPS 管理ソフトを使用してネットワーク通信を行う場合(\*\*)は、ファイアウォールを無効に設定するか、 UPS 管理ソフトが使用するネットワークポートを開放する必要があります。

(※) UPS 管理ソフトのサーバ/クライアント構成、または LAN I/F 付き UPS に接続する場合

ファイアウォールを無効にする場合、以下のコマンドを実行します。

- # (一時的にFirewallを停止する場合)
- # systemctl stop firewalld

#

- # (恒久的Firewallを停止する場合)
- # systemctl disable firewalld

Firewallの設定ツールからも設定が行えます。

また、個別にポートを開放する場合は、以下のような手順で行います。

(例:通知受信用の31000/tcpポートを開く場合の設定例。開放するポートを設定後、firewalldの再起動を行う)

- # firewall-cmd --permanent --add-port=31000/tcp
- # systemctl stop firewalld
- # systemctl start firewalld

BPSPOC-IIが使用しているポートについては、ユーザガイド「付録E 使用プロトコルおよびサーバポート」に一覧が記載されていますので、こちらを参照してください。

(ファイアウォールコマンドについては、OSのマニュアルを参照してください)

SUSE Linux Enterprise Server でのファイアウォールの設定について

UPS 管理ソフトを使用してネットワーク通信を行う場合<sup>(※)</sup>は、ファイアウォールを無効に設定するか、 UPS 管理ソフトが使用するネットワークポートを開放する必要があります。

(※) UPS 管理ソフトのサーバ/クライアント構成、または LAN I/F 付き UPS に接続する場合

「YaST」ツールを使用してファイアウォールの設定を行うことができます。

GUIツール版は、メニューから起動することができます。

CUIツール版は、コンソールから「yast」を入力し、実行します。

ファイアウォールの「有効/無効」を設定する、または使用を許可するポートを個別に設定することも可能です。

Red Hat Enterprise Linux 6.0 x64環境をお使いの場合のGUIツール起動について

Redhat Enterprise Linux 6.0のx64版をお使いの場合、デフォルトではGUIツールが起動しません。 GUIツール起動スクリプト中に以下の環境変数を追加することで、GUIツールが起動できるようになります。

以下設定方法です。

BPSPOC-IIインストールディレクトリ先にある「sg4」ファイル(スクリプトファイル)をエディタで開きます。

ファイルの最終行に以下の一行を追加します。

export LD\_BIND\_NOW=1

\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*

メッセージBOXの表示について

\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*

CDE、GNOME、KDE 等のウインドウ環境を使用されている場合、停電発生などのイベント発生により、メッセージBOXがポップアップ表示されます。(root でログインした場合は、特に設定の必要はありません)

一般ユーザでログインした環境でメッセージBOXを表示する場合は、ktermなどの端末プログラムから以下の"xhost"コマンドを実行してください。

\$ xhost +

# 付録C UNIX版をお使いになる際の注意事項

Solaris版のご使用にあたって

\*

(1)システムパッケージの追加インストールについて

## Solaris8 ~ 10の場合

BPSPOC-IIを動作させる場合は、以下のパッケージがインストールされている必要があります。 (pkginfo 〈パッケージ名〉 コマンドを使用し、パッケージのインストール有無を確認できます) インストールされていない場合は、OSインストールCDからインストールしてください。

パッケージ名	説明
SUNWjiu8	パッケージがインストールされていない場合、
	・GUIツールでは、通信異常となりUPSとの接続設定ができません。
SUNWuiu8	・CUIツールを使用してUPSとの接続設定はできますが、停電発生等の
	メッセージがターミナルおよびメッセージBOXに表示されません。

# Solaris11の場合

BPSPOC-IIを動作させる場合は、使用方法により以下のパッケージをインストールする必要があります。

(pkg info 〈パッケージ名〉 または、pkg list コマンドにてパッケージのインストール有無を確認できます)

以下のパッケージがインストールされていない場合は、パッケージレポジトリから追加パッケージをインストールしてください。

## <BPSPOC-II日本語版をインストールし、GUIツールを使用する場合>

パッケージ名	説明
liburg / / wa Aif	GUIツールの表示に必要です。インストールされていないと、
library/motif	GUIツール起動ができません。
	インストールされていないと、GUIツールでの設定中に通信
system/library/iconv/unicode	異常が発生します。
system/locale/extra	日本語メッセージ表示(コンソールメッセージ、ポップアップ
system/library/iconv/extra	メッセージ)に必要になります。
	GUIツールの日付表示などで表示エリア内に入りきらない表
system/font/truetype/fonts-core	示が改善されます。

## 付録 C UNIX 版をお使いになる際の注意事項

### <BPSPOC-II日本語版をインストールし、GUIツールを使用しない場合>

パッケージ名	説明
system/locale/extra	日本語メッセージ表示(ターミナルメッセージ、メッセージ
system/library/iconv/extra	BOX)に必要になります。

### <BPSPOC-II英語版をインストールし、GUIツールを使用する場合>

(= = = = = = = = = = = = = = = = = = =	
パッケージ名	説明
library/motif	GUIツールの表示に必要です。インストールされていないと、
	GUIソール起動ができません。
system/font/truetype/fonts-core	GUIツールの日付表示などで表示エリア内に入りきらない表
	示が改善されます。

### <BPSPOC-II英語版をインストールし、GUIツールを使用しない場合>

パッケージ名	説明
_	パッケージ追加なしに使用できます

### (2) Zoneの使用について

### Solaris 10以降 をお使いの場合

Zone (non-global-zone) を構築している環境の場合、本システムはglobal-zone ヘインストールし、global-zoneにおいて使用してください。

global-zone ヘインストールした本システムをnon-global-zoneから使用することはできません。

## (3) CD-ROMのマウントについて

本製品のソフトウェアはインストールCDからインストールを行うようになっています。 通常、ボリュームマネージャによってインストールCDをトレイに挿入すると、自動的にマウントされます。インストールCDをトレイに挿入しても、自動マウントされない場合は、ボリュームマネージャが動作しているか確認してください。

# ps -ef | grep vold

root 254 1 0 19:53:30 ? 0:00 /usr/sbin/vold root 587 586 0 20:46:28 pts/5 0:00 grep vold

※ Solaris11では、vold に代わり、 rmvolmgr になります。

ボリュームマネージャが動作していない場合は、以下のコマンドにより起動することができます。

(Solaris8~10の場合)

# /etc/init.d/volmgt start

(Solaris11の場合)

# svcadm restart rmvolmgr

手動でマウントする場合は、

# /usr/sbin/mount -F hsfs -o ro /dev/dsk/c0t6d0s0 /cdrom のようにします。

(動作環境により、デバイス名など変わる可能性があります。お使いの環境にあわせた設定を行ってください。また、コマンドの使用については、マニュアルページなどを参照してください)

\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*

メッセージBOXの表示について

\***\*** 

CDE、GNOME、KDE 等のウインドウ環境を使用されている場合、停電発生などのイベント発生により、メッセージBOXがポップアップ表示されます。(root でログインした場合は、特に設定の必要はありません)

一般ユーザでログインした環境でメッセージBOXを表示する場合は、ktermなどの端末プログラムから以下の"xhost"コマンドを実行してください。

\$ xhost +

### Solaris11 をお使いの場合

**Solaris11** では、root はログインアカウントではなく、**役割**と呼ばれる特殊なユーザアカウントに割り当てられます。そのため、root でログインを行った場合でも、メッセージ BOX を表示する場合は、**xhost +** を実行していただく必要があります。

# 付録D サイレントインストールの使用について

BPSPOC-II Windows版では、サイレントインストールに対応しています。 以下のコマンドを組み合わせて使用することにより、BPSPOC-IIのインストール、変更、およびアンインストールを行うことができます。

以下では、サイレントインストールの使用方法について、説明を行います。

# 【新規インストール】

例1:次のコマンドは、デフォルトの設定値のままでインストールを行う場合のコマンドです。 (シリアル番号は、インストールCDケースに記載されたものを使用してください。)

# start /w Setup. exe /s /v" /qn ISX\_SERIALNUM="XXXXX-XXXX-XXXXX-XXXXX""

- 1
- 2
- 3 4 5
- **6**)
- ①: Windowsのコマンドを実行
- ②:BPSPOC-IIインストールプログラム
- ③:サイレントインストールの指定
- ④:msi(Microsoft Windows Installer)に渡す文字列データの指定
- ⑤:msiへ、UI(ユーザインターフェース)非表示を指定
- ⑥: "XXXX-XXXX-XXXX"の部分にはシリアル番号を指定(シリアル番号は、インストールCDケースに記載されているものを入力します)

例2:次のコマンドは、言語を「英語」にしてインストールを行う場合のコマンドです。
start /w Setup.exe /s /L1033 /v"/qn ISX\_SERIALNUM="XXXXX-XXXXX-XXXXX""

①

- ①:使用言語を指定します。上記は英語の言語IDです。(日本語の場合は、指定なし)
- 例3:次のコマンドは、インストール先を指定する場合のコマンドです。
  start/w Setup.exe/s/v"/qn ISX\_SERIALNUM="XXXXX-XXXXX-XXXXX" INSTALLDIR=\formalfontarrow" (1)
  - ①:インストール先を指定します。上記は、"C:\\ SS"をインストール先に指定した場合。 (インストールパスは、\( \) "で囲みます)

例4:次のコマンドは、アプリケーションシャットダウン機能を含める場合のコマンドです。
start /w Setup.exe /s /v" <u>APPSD=1</u> /qn ISX\_SERIALNUM="XXXXX-XXXXX-XXXXX""

①

(1):アプリケーションシャットダウンのインストールも行う場合に指定します。

### 【変更】

例1:アプリケーションシャットダウン機能の追加(インストールCD使用時)

start /w Setup.exe /s /v" /qn ADDLOCAL=APP\_ShutDown"

1

①:アプリケーションシャットダウン機能を追加する。(インストールCDがセットされている必要があります。)

例2:アプリケーションシャットダウン機能の追加(インストールCDを使用しない場合)

- ①:製品のインストール、または構成を行う。
- ②:インストーラパッケージのグローバルー意識別子(GUID)として上記コードを使用。

## 【アンインストール】

例:BPSPOC-IIのアンインストールを行います。

wmic product where name="BPSPOC-II" call uninstall

※このコマンドをコマンドプロンプトから実行するときは、コマンドプロンプトは「管理者で 実行」として起動してください。

UPS 管理システム BPSPOC-Ⅱ インストールガイド

2018年3月 1日 2版

NEC フィールディング株式会社 〒108-0073 東京都港区三田一丁目 4 番 28 号(三田国際ビル) http://www.fielding.co.jp

NECフィールディング株式会社の許可なく複製・改版などを行うことはできません。 本書の内容は、将来予告なしに変更する場合があります。

TMU-01898-002

